

# Ⅱ 学修編



## 履修するということ

大学で授業を受けるためには、高校までとは違って自ら科目を選び登録しなければなりません。この一連の行為を「履修登録」といいます。「履修登録」していない科目は、試験を受ける権利は与えられませんし、当然のことながら成績（評価）も与えられません。すなわち、正しい履修登録を行わない場合には、卒業することができないのです。

この「学生生活ハンドブック」は、学生諸君が本学で学ぶうえでのガイドブックとして作成されており、カリキュラムや授業・試験などの内容や、さまざまな手続き、決まりごとを掲載しています。詳しくは該当のページをよく読んで下さい。

また、この「学生生活ハンドブック」とともに配付した「履修のてびき」を活用し、自分の将来計画・資格取得等を充分考慮して「履修登録」を行って下さい。

現在、本学部には約1,700人の学生が在籍しています。その履修・成績等の膨大なデータを一括して取り扱う関係上、学生諸君への伝達事項（呼び出し・時間割発表など）は、「書類配付」または「掲示」・「学生ポータルサイト（web）への掲載」で行うことになっています。配付した書類は、必ずよく読んで下さい。また、学内の掲示および学生ポータルサイト（web）を見る習慣を身に付けて下さい。さらに、各種手続き・提出物に関しては、提出期日を必ず守って下さい。卒業後、実社会での諸手続きの期限は実に厳格です。社会に適応する意味においても在学中から「締切日1日前の提出」を心がけて下さい。配付した書類や掲示を読んでもなお判らない場合には、学生教務課窓口で相談して下さい。

## 学生諸君への注意事項

- 1 配付した書類は熟読して下さい。
- 2 掲示・学生ポータルサイトを必ず確認して下さい。
- 3 履修登録期限やレポートなどの提出期限は厳格に守って下さい。（期限後は受け付けません）
- 4 電話での問い合わせは原則として受け付けません。
- 5 学生教務課の業務時間は〔平日：月曜～金曜〕 8：30～17：00です。質問・相談等は業務時間内に行ってください。

## 1. 授業科目と単位制

### (1) 授業科目

授業科目は本学の教育目標を達成するために、次のように分けられ各年次に配当されています。

- 必修科目……………その学科で必ず履修し、修得しなければならない科目。
- 選択必修科目……………指定された科目の中から、決められた単位を満すよう履修して下さい。
- 選択科目……………学生の意思により選択し、卒業要件の必要単位数以上を修得しなければならない科目。

### (2) 単位制

大学における単位制とは授業科目を履修し、その授業科目に与えられた単位を試験等に合格することによって修得する制度です。卒業までに定められた単位数を修得しなければなりません。

各授業科目の単位数は、授業の方法に応じて異なり当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して次の基準により定められています。

#### [単位の計算基準]

区 分	単位数	授 業 時 間
講義・演習（外国語を含む）	2 単位	2 時間(週 1 コマ)×15週(半期)
実験・実習、スポーツレクリエーション	1 単位	2 時間(週 1 コマ)×15週(半期)

※ 1 時限（1 コマ＝2 時間）は90分授業で実施します。

## 2. 授 業

### (1) 学 期 制（セメスター制）

本学では1年間を前学期と後学期の2学期に分け、一部の科目を除きそれぞれの学期の中で、各学期配当科目の授業・試験・成績評価を行います。したがって各学期の最終評価が不合格となった科目を履修する場合は、翌年度に再度履修し授業を受講することになります。

## (2) 授業時間

本学の授業は、90分を1時限として行います。なお、授業の時間区分は次のとおりです。

時 限	1時限目	2時限目	昼休み	3時限目	4時限目	5時限目	6時限目
時 間 (90分間)	9 : 00	10 : 40	12 : 10	13 : 00	14 : 40	16 : 20	18 : 00
	∟ 10 : 30	∟ 12 : 10	∟ 13 : 00	∟ 14 : 30	∟ 16 : 10	∟ 17 : 50	∟ 19 : 30

※ 短期間に行う集中授業及び隔週で行う授業もあります。

## (3) 出席の重要性

授業は教員と学生が直接人間的なふれあいを通して学問する場であり、学生生活の基本となるものです。また、単位制の基本となる授業時間について定めがあるように出席状況は成績評価の重要な要素になります。なお、授業を3分の1以上欠席した場合は定期試験等を受験しても単位を修得できない場合があります。

## (4) 欠 席 届

授業を止むを得ない事由で欠席する場合、または欠席した場合は、学生ポータルサイトの学生生活情報→申請書類から「授業欠席届」をダウンロードし、必要事項を記入の上、授業担当者に直接提出して下さい。

## (5) 休 講

休講の場合は事前に掲示により伝達します(学生ポータルサイトで掲示)。休講の掲示がなく、30分経過しても授業が開始されない場合は、学生教務課で確認して下さい(休講情報は、学生ポータルサイトで確認できます)。

## (6) 補 講

授業時間数が止むを得ぬ事情により不足した場合には、補講授業を実施することがあります。この場合、授業担当者が指示するほか掲示により伝達します(補講情報は、学生ポータルサイトで確認できます)。

## (7) 学生による授業評価

本学では授業をよりよくするために、学生ポータルサイト等で「学生による授業評価」を実施しています。よりよい授業を行うことは授業担当者の責務ですが、内容がきちんと受講生に伝わっているか、理解されているか、あるいは「わかりやすいか」を把握(測定)するためには授業評価を実施して受講生の声を集める必要があります。また、大学全体の授業と比較して自分の授業がどうであるかを把握するためにも授業評価は有効です。よりよい授業は授業担当者と受講生が協力して創り上げるものであるため、授業評価の実施にご協力ください。



### 3. 履修計画・履修登録

#### (1) 履修計画

履修登録を行うにあたって、1年間の履修計画を立てなければなりません。次の点を考慮し計画して下さい。

- 必修科目は、決められた年次・学期に履修して下さい。
- 選択科目は、将来志向や資格取得などを考え、卒業要件を満たすように履修して下さい。
- 80ページからの「12. 配当科目一覧(各学科授業科目配当表)」と「講義要項(シラバス)」を熟読しカリキュラムの概要を把握して下さい。
- 進級基準及び卒業基準(75ページ)を超えるように、履修計画を立てて下さい。
- 生物産業学部の他学科の授業科目を履修することもできます(他学科聴講)。他学科聴講に際しては、70ページの注意事項に従って登録して下さい。
- 他学部の授業科目を履修することもできます(他学部聴講)。他学部聴講により履修できる単位数は30単位までです。修得した単位は、選択科目の卒業要件に加えることができます。他学部聴講に関する細則は別に定めています(詳細は学生教務課で確認して下さい)。

#### (2) 履修登録

履修登録とは、各自が受講しようとする授業科目について、その意思表示をすることです。履修登録は1年間の履修計画を決める上で最も重要な手続きであり、単位の修得および卒業には欠かすことのできないものです。履修登録を安易に考え、手続きを怠ったことにより無駄な時間を過ごしてしまうことになりかねません。各自の履修計画を円滑に進めるために細心の注意を払って履修登録を行って下さい。

なお、履修登録の詳細は『履修のてびき』(別冊)に記載してあります。これを参照し履修登録を行って下さい。

#### 〈履修上の注意事項〔取決め事項〕〉

##### 〔履修登録単位数の制限について〕

単位を得るためには、定められた時間の学習が必要です。例えば、講義科目の場合、2単位を修得するためには、90時間の学習が必要であり、1回の授業において2時間(2時間×15週間=30時間)学び、1週間に4時間(4時間×15週間=60時間)の予習・復習を行うことにより、単位が与えられます。このように履修登録単位数と学習時間は連動しており、登録する単位数が多ければ1週間に学習する時間は比例して増加することになります。

本学では履修登録を行うにあたって、次のように登録できる単位数を制限しています。1週間に学習できる時間数を考えて履修登録を行うようにして下さい。なお、教職・学術情報課程科目・特別講義については、この履修登録単位数の制限から除外します。

1年間に履修登録できる単位数の上限……49単位（他学科・他学部聴講を含む）

各学期に履修登録できる単位数の上限……25単位（他学科・他学部聴講を含む）

例えば前学期配当科目を25単位登録した場合には、後学期配当科目で登録できる単位数は24単位になります。

※履修登録できる単位数とは、あくまでも登録した科目の総単位数であり、修得できた総単位数ではありませんので、注意して下さい。

#### 〔有料科目について〕

一度履修して不合格になった科目を再び履修（再履修）する場合は有料になり（指定された一部の科目を除く）、1科目につき所定の金額を納付することになります。詳細は「履修のてびき」で確認して下さい。

#### 〔他学科聴講履修登録注意事項〕

##### 1. 在学期間中に履修できる単位数制限

生物産業学部では在学期間中に、他の学科の授業科目を30単位まで履修登録することができます（修得した単位は30単位まで選択科目として卒業要件単位に加えることができます）。

履修できる単位数（可否にかかわらず、履修した時点で単位数をカウントします。また、再履修をした場合、再度単位数がカウントされます）が決まっていますので本ハンドブックを熟読し、卒業するまでの履修計画を立てて下さい（むやみに履修すると履修したい科目が出て来ても履修することができなくなります）。

##### 2. 上級学年配当の科目は履修することができません。

##### 3. 原則として講義科目のみ他学科聴講できます。実験、実習、演習科目〔中国語（三）、（四）は除く〕は履修できません。

##### 4. 学部共通科目等自学科の授業科目と同名の授業科目については他学科聴講できません。

##### 5. 他学科の同名の授業科目を同時に履修することはできません。また、単位を修得した授業科目と同名科目を履修することはできません（『履修のてびき』他学科聴講同名科目一覧参照）。

#### 〔メディアを利用して行う授業について〕

80ページからの「12. 配当科目一覧（各学科授業科目配当表）」の表中で、備考欄に「メディア」と記載した科目は、マルチメディアを利用して世田谷・厚木キャンパスと合同で行う遠隔授業です。

本学では、大学設置基準（第32条第5項）に基づき、該当科目の修得単位を卒業要件単位として認めています。

### (3) 履修登録の確認

履修登録した授業科目が正確に表示されているか学生ポータルサイトにて必ず確認して下さい。

※ エラーメッセージがない場合も必ず確認して下さい。誤った科目が登録されていることもあります。

### (4) 履修の修正

授業科目が誤って登録されていたり、エラー表示がある場合の訂正および登録科目の追加等は、指定された履修修正期間に修正をして下さい。

※ エラー表示のある科目を訂正しない場合には、その科目の登録は無効になります。

### (5) 履修の確定

履修修正終了後、学生ポータルサイトに掲載され、常時同サイトで自分の「履修確定表」を見ることができます。この表に記載されている授業科目が当該年度の登録された科目です。

## 4. 試 験

授業科目の履修状況を評価し、単位を認定するために試験を行います。授業科目によっては、レポートに代える場合や授業中に試験を行う場合があります。授業に出席し授業担当者の指示に従って下さい。

### (1) 受験資格

- ① 当該授業科目を履修登録していること。
- ② 当該授業担当者の定める出席日数を満たしていること（原則として授業日数の $\frac{2}{3}$ 以上）。
- ③ 当該学期までの学費その他の納付金を納入していること。

※ 休学期間中に試験を受けることはできません。

### (2) 定期試験

定期試験は一定の期間内に時間割を決めて各学期に実施する試験です。詳しくは試験開始1週間前に学生ポータルサイトで発表します（実験・実習・演習科目は、原則として「定期試験」を実施しません）。

なお、定期試験を病気その他止むを得ない事由により欠席した場合は、指定された期日（試験時間割発表時に掲示）までに欠席の事由を証明する書類を持参し、試験欠席の手続きを行って下さい。この届出により、追試験の受験を認めます。

欠席事由と添付提出書類は次のとおりです。

欠 席 事 由	提 出 書 類
病気	医師の診断書(試験当日の健康状態を記載のものに限る) ※インフルエンザを除く
交通機関の遅延	交通機関発行の遅延証明書
忌引(3親等までの親族の死亡)	死亡に関する書類(会葬通知等)
就職試験等	キャリア課の指示を受けること
災害(水害・火災等)	官公庁による被災証明書
その他	公的に認められる書類

※詳細は関係窓口で確認して下さい。

※自家用車等で通学する学生が事故等で試験を欠席した場合は追試験の対象となりません(なるべくバスを利用すること)。

### (3) 定期試験に関する注意事項

- 試験時間は50分間です。通常の授業時間とは異なるので注意して下さい。
- 学生証を所持していない学生は受験できません。なお、当日忘れた場合は、学生教務課にて「仮学生証」の発行を受けて下さい(有料/500円・当日限り有効)。
- 受験科目が重複した場合は、指定された期日(試験時間割発表時に掲示)までに学生教務課窓口へ申し出て下さい。
- 答案は白紙であっても必ず提出して下さい。
- 不正行為が発覚した場合には、それ以前に受験した科目の評価をすべて無効(未評価)とします。
- 試験場においては、すべて監督者の指示に従わなければなりません。
- その他試験に関しては学生教務課窓口へ問い合わせして下さい。なお、試験に関する詳しい注意事項等は、試験時間割発表時に、学生ポータルサイトでお知らせします。

#### (4) 追 試 験

定期試験を病気その他止むを得ない事由により受験できなかった者のうち、指定された期日までに試験欠席届を提出した者に対して行う試験です（無料）。また、本人の不注意による試験の欠席および証明する書類がない場合には、追試験の対象となりません。

※ 追試験を欠席した場合の再度の試験は行いません。

#### (5) 再 試 験

成績が「不可」となった科目に対して行う試験です（有料／1科目2,000円）。ただし、実験・実習・演習科目は再試験を行いません。

また、再試験の結果、合格した場合の評価は原則として「可」となります。

※ 再試験を欠席した場合の再度の試験は行いません。

### 5. 成 績

#### (1) 成績評価

成績評価は、「秀」「優」「良」「可」が合格で、「不可」「未評価」は不合格です。成績評価の基準は、次の通りです。

成績評価基準のガイドライン

判 定	成 績	表 示	成績評価基準	G P	成 績 評 価 内 容
合 格	秀	S	100～90点	4.0	特に優れた成績
	優	A	89～80点	3.0	優れた成績
	良	B	79～70点	2.0	妥当と認められる成績
	可	C	69～60点	1.0	合格と認められる成績
不 合 格	不可	D	59点以下	0	合格と認められる成績に達していない
	未評価	F	—	0	評価に値しない



## (2) GPA (グレード・ポイント・アベレージ)

### 1) GPA

自らの学業成績の状況を的確に把握して、適切な履修計画とそれに基づく学習に役立てるため、GPAを算出。

### 2) GPA対象科目

GPAの対象科目は、①「卒業要件に算入できる科目」であって、かつ②「5段階評価によって成績を認定する科目」とし、③「学生が履修登録した科目」とします。したがって、他学科・他学部聴講科目などは含め、教職・学術情報課程および認定科目は除かれます。

### 3) GPAの算出

[学期ごとのGPAの算出方法]

学期ごとのGPA算出は、次の式によります。

$$\frac{(\text{当該学期で履修登録したGPA対象科目のGP} \times \text{その科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{当該学期で履修登録したGPA対象科目の単位数の合計}}$$

注1. GPA対象科目で不可(D)および未評価(F)科目は、分母に含みます。

注2. 通年科目は後学期に含めGPAを算出します。

注3. 「不可」・「未評価」となった科目を再履修した場合は、再履修した当該学期の対象科目に含め、GPAを算出します。

注4. 前項の場合、「不可」・「未評価」となった学期に遡りGPAは変更しません。

[通算GPAの算出方法]

通算GPAは、在学中に履修登録したすべてのGPA対象科目に基づくもので、その算出は次の式によります。

$$\frac{(\text{在学中に履修登録したGPA対象科目の最新GP} \times \text{その科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{在学中に履修登録したGPA対象科目の単位数の合計}}$$

注1. 通算GPAは毎学期末に算出します。

注2. 再履修した場合は1科目としてカウントします(ダブルカウントしない)。

注3. 再履修した科目のGPは、最新の評価に基づく値で算出します。

## (3) 成績発表

前年度までに履修した授業科目の成績は、新年度の授業開始前に学生ポータルサイトの「あなたの成績台帳」で発表します。

なお、定期試験の結果は前学期9月上旬、後学期2月中旬に学生ポータルサイトの「あなたの履修」で発表します。

## (4) 成績証明書

成績証明書には、「秀」「優」「良」「可」の合格した授業科目(科目名・単位数・評価)のみを記載し、不合格の授業科目は記載しません。

## 6. 進 級

2年次終了時に3年次への進級判定があります（休学者を除く）。

原則として、2年次終了時に卒業要件に関わる修得単位数が50単位未満の場合には、3年次への進級を認めません（原級または学則第35条第1項第2号に該当する退学を命ずることがあります）。

## 7. 卒業・学位

### (1) 卒業要件

卒業に必要な単位数は「124単位」です。

[学科別卒業要件単位数]

学 科 名	必 修	選択必修	専門コア(選必)	選 択	合 計
生物生産学科	51	12	4	57	124
アクアバイオ学科	56	12	4	52	124
食品香粧学科	87	12	—	25	124
地域産業経営学科	62	12	16	34	124

※ 生物生産学科の専門コア科目の選択必修科目は、専攻した分野以外から原則として履修することができません。

※ アクアバイオ学科の専攻した分野以外の専門コア科目の選択必修科目は選択科目として履修することができます。

※ 他学科・他学部聴講で修得した単位は、30単位まで選択科目に加えることができます。

※ 詳細については、80ページからの学科別授業科目配当表を参照して下さい。

### (2) 学 位

生物生産学科、アクアバイオ学科及び食品香粧学科の卒業生には、学士（農学）、地域産業経営学科の卒業生には、学士（経営学）の学位を授与します。また卒業時に学位記を授与します。

### (3) 9月卒業

次の各項目をすべて満たす場合は、9月30日付で卒業とします。

○9月30日までに卒業要件単位を満たしていること

（9月30日までに卒業論文の評価が合格になった場合を含みます）

○9月30日で4年間在学していること

○4年次を通算で1年間以上在籍していること

○該当学生が9月卒業を希望していること

## 8. その他

### (1) 学生への連絡と掲示

学生への通知や連絡は、すべて学生ポータルサイトによる掲示によって行います。休講、補講、教室変更、時間変更、手続書類不備の呼出し等を掲示しますので、必ず学生ポータルサイトを見る習慣をつけて下さい。

なお、電話による問い合わせ（行事予定、試験、休講等）には応じません。学生ポータルサイトで確認するか、担当窓口で直接聞いて下さい。

### (2) 窓口受付

履修に関する相談、学籍異動の願い出、試験に関する質問、修学上必要な事項の相談・質問等は学生教務課の窓口へ直接申し出て下さい。

学生教務課窓口受付時間（夏季休業期間中は時間変更があるので確認のこと）

8：30～17：00（月曜日から金曜日）

### (3) レポート提出時の注意事項

レポートの提出は、担当教員が授業中に提出を求める場合、担当教員が締切期日を指定して研究室等で受け付ける場合、学生教務課窓口で受け付ける場合があります。

いずれの場合も**提出締切厳守**となっていますので注意して下さい。

レポートの提出に際しては、原則として次の注意事項に従って下さい。

○表紙を含め用紙のサイズは、授業担当者の指示がない限りA4にして下さい。

○必要事項（科目名・担当者・課題・学科・学年・学籍番号・氏名）をもれなく記載して下さい。

〈レポート表紙の様式〉 A4サイズ

科目名： _____ 担当者： _____
〈課題〉 _____ _____
学科： _____ 学年： _____ 学籍番号： _____
氏名： _____

○原則として左上角をホッチキスで必ず止めて下さい。ただし、授業担当者の指示がある場合はそれに従って下さい。

○定められた場所に提出して下さい。

○期限は厳守して下さい。

○表紙のないレポートや、記載内容に不備があるレポートは、無効になる場合があります。

○WEBサイト等から文書をコピーアンドペーストして完成させたレポートは評価の対象になりません。文章を引用する場合は必ず引用元（URLなど）とその取得日を明記するだけでなく、根拠となる原著文献を調べて記載しましょう。

#### (4) 証明書の発行

##### ① 証明書の種類

在学証明書、成績証明書、卒業見込み証明書、卒業証明書等があります。各証明書の有効期限は、発行日から3ヶ月です。

##### ② 証明書の申し込み方法

上記の証明書の発行手数料は1通につき200円です。ただし、英文の場合は1通につき300円となります。発行は『証明書自動発行機』にて自動発行されるものと窓口にて発行されるものがあります(詳細は24ページ参照のこと)。英文の証明書についてはすべて窓口発行です。多少時間がかかる場合がありますので早目に申請して下さい。

##### ③ 卒業見込み証明書の発行条件

3年次終了時点で修得単位数が原則90単位以下の場合には発行しないものとします。4年次前学期の修得単位数が90単位以上となった場合には、発行できるものとします。

### 9. 各種資格取得について

#### (1) 教員免許状取得について

本学部の学生は、所定の受講料を納付した後、教育職員免許法第5条の規定により定められた基礎資格と大学における教職に関する科目、教科に関する科目、教科又は教職に関する科目等について所定の単位を修得することにより、下記の教員免許を取得することができます。

なお、教員免許状取得に関する詳細は「教職・学術情報課程」(別冊)に記載してありますのでこれを参照して下さい。

[学科別免許状取得教科一覧]

学 科 名	免許状の種類及び教科	
	中学校教諭 一種免許状	高等学校教諭 一種免許状
生物生産学科	—	農 業
アクアバイオ学科	理 科	理 科
食品香粧学科	理 科	理 科
地域産業経営学科	社 会	公 民

#### (2) 学芸員資格について

本学部の学生は、所定の受講料を納付した後、博物館法第5条第1号の規定により卒業要件を満たし、博物館に関する所定の単位を取得した者に対し資格の証明として「博物館に関する科目の単位修得証書」を授与します。

なお、学芸員資格に関する詳細は「教職・学術情報課程」(別冊)に記載してありますのでこれを参照して下さい。

### (3) 食品香粧学科学生の毒物および劇物取扱責任者

食品香粧学科の学生は、在学中に化学に関する授業科目(☆印)のうち、28単位以上修得し、卒業することによって、「毒物及び劇物取扱責任者」の任用資格を得ることができます(84ページ～85ページ食品香粧学科授業科目配当表参照)。詳細については学生教務課窓口にて問い合わせ下さい。

### (4) 食品香粧学科学生の食品衛生管理者および食品衛生監視員

食品香粧学科の学生は、在学中に食品衛生管理者および食品衛生監視員に関する必修科目を修得し、卒業することによって、「食品衛生管理者および食品衛生監視員」の任用資格を得ることができます(84ページ～85ページ食品香粧学科授業科目配当表参照)。詳細については学生教務課窓口にて問い合わせ下さい。

### (5) 地域産業経営学科学生の社会調査士

社会調査士とは社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場の動向、社会事象等をとらえることのできる能力を有する「調査の専門家」のことです。

社会調査士は、一般社団法人社会調査協会(以下、協会)が認定する資格です。協会が定めた標準カリキュラムに対応した社会調査に関する講義の単位を取得した後に協会に申請することで資格を取得することができます。

地域産業経営学科では、社会調査士資格制度に参加しています。協会が定めた標準カリキュラムに対応した7つの講義の単位を取得すれば、別途試験等を受けなくても資格を取得することができます。対応する講義は、右の表を参照してください。

社会調査士は『就職が絶対的に有利な資格』『この職業に就くためには必須の資格』とまでは言えません。しかし、この資格を取得すれば、社会調査の知識を持つ人として、社会調査を企画・実施・分析を主要な業務とする調査研究機関だけでなく、企業の調査部門(消費者対応や商品開発など)をはじめ、地方自治体、中央官庁など様々な業種・業界で活躍できる基本的スキルが身につけていると見なされます。また、「大学の勉強で、顧客や消費者のニーズを探るなどの調査方法や収集したデータをしっかり分析することができる能力を身に付け、その資格も取得しました。」と自己PRすることもできます。情報化社会を生きる現代、世の中に溢れている情報を適切に整理・分析できるスキルが身につけていることは、ビジネスパーソンとして求められる素養の一つではないでしょうか。

簡単ではありませんが、大学の講義を履修することで取得できる資格ですので、チャレンジしてみてはどうでしょうか?

なお、本資格取得についての質問は、担当教員(笹木)に尋ねてください。

※社会調査士の資格は、大学を通して申し込みます(申請手数料も必要になります)。詳しくは対象学生に個別に案内しますが、協会のwebページでも確認することができます。



## ○社会調査士資格認定科目

地域産業経営学科で、社会調査士の資格認定を受けるためには、次の講義の単位を取得してください。

科目	内 容	設 定 科 目	開講年次
A	社会調査の基本的事項に関する科目	社会調査論	1年 後期
B	調査設計と実施方法に関する科目	オホーツク産業実習	2年 前期
C	基本的な資料とデータの分析に関する科目	統計学	1年 後期
D	社会調査に必要な統計学に関する科目	経営統計分析	2年 前期
E	量的データ解析の方法に関する科目	産業経営実務演習(一)	2年 通年
G	社会調査の実習を中心とする科目	社会調査実習(一)	3年 前期
		社会調査実習(二)	3年 後期

※G科目は、同一年度に「社会調査実習(一)」と「社会調査実習(二)」をセットで履修した場合に限り、「社会調査士」の資格要件として認められます。

※G科目では、休日や夏季、冬季休暇中に実習等を行う場合があります。また、実習費(現地調査にかかわる交通費、宿泊費などの自己負担)が必要になることがあります。

## 10. 他大学との単位互換について

本学部では、北見工業大学および日本赤十字北海道看護大学との交流と協力を促進し、教育内容の充実を図ることを目的として、各大学の授業科目を履修し、単位を修得することができます。詳細については学生教務課窓口にて問い合わせ下さい。

## 11. 地域産業経営学科学生の単位互換について

本学部地域産業経営学科の学生は、東京情報大学総合情報学部情報ビジネス学科間において、多様な学習機会の提供と相互交流の活性化を図ることを目的とし、「国内留学生」として東京情報大学に滞在し単位を修得することができます。詳細については学生教務課窓口にて問い合わせ下さい。

12. 配当科目一覧（東京農業大学学則第15条別表第一適用）

(1) 生物生産学科授業科目配当表

分野	区分	授業科目	単位	週時間数				備考	
				1年次	2年次	3年次	4年次		
総合教育科目	導入科目	必	フレッシュマンセミナー	2	F 2				
		必	情報基礎(一)	2	F 2				
		必	情報基礎(二)	2	L 2				
	課題別科目	選	特別講義(一)	2	F L 2				
		選	特別講義(二)	2		F L 2			
		選	特別講義(三)	2			F L 2		
		選	特別講義(四)	2			F L 2		
		選	インターナショナル・スタディーズ(一)	2	F 2			メディア	
		選	インターナショナル・スタディーズ(二)	2	L 2			メディア	
	英語科目	必	英語(一)	2	F 2				
		必	英語(二)	2	L 2				
		必	英語(三)	2		F 2			
		必	英語(四)	2		L 2			
		選	英語リーディング(一)	2			F 2		
		選	英語リーディング(二)	2			L 2		
		選	TOEIC英語(一)	2			F 2		
		選	TOEIC英語(二)	2			L 2		
		選	英会話(一)	2	F 2				
		選	英会話(二)	2	L 2				
		選	ビジネス英語	2				L 2	
	学部共通	初修外国語科目	選	中国語(一)	2	F 2			
			選	中国語(二)	2	L 2			
			選	応用中国語(一)	2		F 2		
			選	応用中国語(二)	2		L 2		
			選	ロシア語(一)	2	F 2			
			選	ロシア語(二)	2	L 2			
	学部共通	スポーツ関係科目	選	スポーツ・レクリエーション(一)	1	L 2			
			選	スポーツ・レクリエーション(二)	1	F 2			
		就職準備科目	選	キャリアデザイン	1		F 1		
			選	インターンシップ	1			F L 1	
			選	ビジネスマナー	1		L 1		
	演習科目	必	共通演習	1	L 1				
	学部共通	リメデアール教育科目	選	基礎生物	2	F 2			
選			基礎化学	2	F 2				
選			基礎数学	2	F 2				
選			文章表現	2	F 2				
専門教育科目	学部共通	必	生物産業学概論	2	F 2				
		必	生物産業体験実習	1	F L 1			農	
		必	人間と職業	2			F L 2		
		選	バイオテクノロジー概論	2	L 2			農	
		選	スポーツの科学	2			L 2		
	創生型科目	選	オホーツク学	2			F 2		
	学際領域科目	選	現代環境論	2	L 2				
		選	産業気象学	2		F 2		農	
		選	食品開発論	2		F 2			
		選	生物産業ビジネス論(一)	2		F 2			
選		生物産業ビジネス論(二)	2			L 2			

- 注) ・区分欄の必は必修科目、選必は選択必修科目、選は選択科目を表す。  
 ・週時間数欄のFは前学期配当科目、Lは後学期配当科目、F Lは通年配当科目を表す。  
 ・備考欄の「農」は高等学校教諭(農業)の一種免許状取得に関する科目を表す。  
 ・備考欄の「メディア」はマルチメディアを利用した遠隔授業を表す。  
 ・中国語(一)・(二)およびロシア語(一)・(二)はいずれか一カ国語に限り選択することができる。  
 ・授業科目配当表に記載してある各科目の配当学期・配当学年は年度により変更することがある。

分野	区分	授業科目	単位	週時間数				備考	
				1年次	2年次	3年次	4年次		
専門教育科目	学 科 基 礎 科 目	人間関係 科目*	選必 コミュニケーション学・心理学	2	F 2				
			選必 宗教と人間	2	L 2				
			選必 倫理学	2		F 2			
			選必 文学・芸術	2		L 2			
		社会関係 科目*	選必 日本国憲法	2	F 2				
			選必 北方地域の歴史と文化	2		F 2			
			選必 地域とビジネス	2		F 2			
			選必 生物産業経営史	2		L 2			
		自然関係 科目*	選必 化学	2	F 2				
			選必 数学	2	L 2				
			選必 生物学	2	F 2				
			選必 地学	2	L 2				
	選必 統計学		2		F 2				
			選必 物理学	2		F 2			
	専 門 科 目	専 門 基 礎 科 目	必 生物資源概論	2	F 2			農	
			必 生物資源各論	2	L 2			農	
			必 計量生物学	2		F 2		農	
			必 細胞生物学	2		F 2		農	
			必 生態学	2	L 2			農	
選 分子生物学			2	L 2			農		
選 バイオケミストリー			2		F 2		農		
選 土壌肥科学			2		F 2		農		
選 実験動物学			2			F 2	農		
選 動物生理学			2			L 2	農		
専 門 コ ア 科 目			植 物 生 産 分 野	選必 植物生産学(一)	2			F 2	農
				選必 植物生産学(二)	2			L 2	農
		選 作物学		2		F 2		農	
		選 植物分子生理学		2		L 2		農	
		選 資源植物学		2			F 2	農	
		選 植物病理学		2			F 2	農	
		動 物 生 産 分 野	選必 動物生産学(一)	2			F 2	農	
			選必 動物生産学(二)	2			L 2	農	
			選 動物生殖工学	2		F 2		農	
			選 動物バイオテクノロジー	2		L 2		農	
			選 動物栄養学	2		F 2		農	
			選 動物生産管理学	2		F 2		農	
生 物 資 源 保 全 分 野		選必 生物資源保全学(一)	2			F 2	農		
		選必 生物資源保全学(二)	2			L 2	農		
		選 動物遺伝学	2		F 2		農		
		選 動物行動学	2			L 2	農		
		選 育林学	2			F 2	農		
		選 森林環境科学	2		L 2		農		
総 合 化 の 科 目		必 生物生産学実験(基礎編)	2	F L 2			農		
		必 生物生産学実習(一)	1	F L 1			農		
		必 基礎生物・化学実験(一)	2	F L 2			農		
		必 基礎生物・化学実験(二)	2		F L 2		農		
		必 生物生産学実験(応用編)	2		F L 2		農		
		必 生物生産学実習(二)	2		F L 2		農		
		必 生物生産学特別実験・実習	2			F L 2			
		必 生物産業学演習(一)	1			F 1			
	必 生物産業学演習(二)	1			L 1				
	必 生物産業学演習(三)	1				F 2			
	必 生物産業学演習(四)	1				L 2			
	必 卒業論文	4							

\*人間関係分野の科目は4科目中から2科目を選び必修とする。

\*社会関係分野の科目は4科目中から2科目を選び必修とする。

\*自然関係分野の科目は6科目中から2科目を選び必修とする。

\*原則、専門コア科目の選択必修科目は他分野他学科から履修することはできない。

卒業要件単位数				
必修	選必	専門コア科目	選択	計
51	12	4	57	124

(2) アクアバイオ学科授業科目配当表

分野	区分	授業科目	単位	週時間数				備考		
				1年次	2年次	3年次	4年次			
総合教育科目	全学共通	導入科目	必	フレッシュマンセミナー	2	F 2				
			必	情報基礎(一)	2	F 2				
			必	情報基礎(二)	2	L 2				
		課題別科目	選	特別講義(一)	2	F L 2				
			選	特別講義(二)	2		F L 2			
			選	特別講義(三)	2			F L 2		
			選	特別講義(四)	2			F L 2		
	選		インターナショナル・スタディーズ(一)	2	F 2			メディア		
	選		インターナショナル・スタディーズ(二)	2	L 2			メディア		
	英語科目	必	英語(一)	2	F 2					
		必	英語(二)	2	L 2					
		必	英語(三)	2		F 2				
		必	英語(四)	2		L 2				
		選	英語リーディング(一)	2			F 2			
		選	英語リーディング(二)	2			L 2			
		選	TOEIC英語(一)	2			F 2			
		選	TOEIC英語(二)	2			L 2			
		選	英会話(一)	2	F 2					
		選	英会話(二)	2	L 2					
		選	ビジネス英語	2				L 2		
		選	科学英語	2				F 2		
		学部共通	初修外国語科目	選	中国語(一)	2	F 2			
	選			中国語(二)	2	L 2				
	選			応用中国語(一)	2		F 2			
	選			応用中国語(二)	2		L 2			
	選			ロシア語(一)	2	F 2				
	選			ロシア語(二)	2	L 2				
	全学共通		スポーツ関係科目	選	スポーツ・レクリエーション(一)	1	L 2			
				選	スポーツ・レクリエーション(二)	1	F 2			
			就職準備科目	選	キャリアデザイン	1		F 1		
				選	インターンシップ	1			F L 1	
	学部共通	演習科目	必	共通演習	1	L 1				
			選	基礎生物	2	F 2				
選			基礎化学	2	F 2					
選			基礎数学	2	F 2					
専門教育科目	学部専門	専門共通科目	必	生物産業学概論	2	F 2				
			必	生物産業体験実習	1	F L 1				
			必	人間と職業	2			F L 2		
		選	バイオテクノロジー概論	2	L 2			理		
		選	スポーツの科学	2			L 2			
		選	オホーツク学	2			F 2			
	学際領域科目	選	現代環境論	2	L 2					
		選	産業気象学	2		F 2				
		選	食品開発論	2		F 2				
		選	生物産業ビジネス論(一)	2		F 2				
		選	生物産業ビジネス論(二)	2			L 2			

- 注) ・区分欄の必は必修科目、選必は選択必修科目、選は選択科目を表す。  
 ・週時間数欄のFは前学期配当科目、Lは後学期配当科目、FLは通年配当科目を表す。  
 ・備考欄の「理」は中学校及び高等学校教諭(理科)の一種免許状取得に関する選択科目を表す。  
 なお「理」は同免許状取得に関する必修科目である。  
 ・備考欄の「メディア」はマルチメディアを利用した遠隔授業を表す。  
 ・中国語(一)・(二)およびロシア語(一)・(二)はいずれか一カ国語に限り選択することができる。  
 ・授業科目配当表に記載してある各科目の配当学期・配当学年は年度により変更することがある。

分野	区分	授業科目	単位	週時間数				備考	
				1年次	2年次	3年次	4年次		
専門教育科目	学 科 基 礎 科 目	人間関係 科目*	選必	コミュニケーション学・心理学	2	F 2			
			選必	宗教と人間	2	L 2			
			選必	倫理学	2		F 2		
			選必	文学・芸術	2		L 2		
		社会関係 科目*	選必	日本国憲法	2	F 2			
			選必	北方地域の歴史と文化	2		F 2		
			選必	地域とビジネス	2		F 2		
			選必	生物産業経営史	2		L 2		
		自然関係 科目*	選必	化学	2	F 2			(理)
			選必	数学	2	L 2			
			選必	生物学	2	L 2			(理)
			選必	地学	2	L 2			(理)
	選必		統計学	2		F 2		理	
	選必		物理学	2		F 2		(理)	
	専 門 基 礎 科 目		必	アクアバイオ学概論	2	L 2			理
			必	野外調査学	2	L 2			
			必	水圏増養殖学	2	F 2			理
			必	水産と海洋の科学史	2	F 2			理
			必	水圏無脊椎動物学	2		F 2		理
			必	魚類学	2		L 2		理
			必	水圏動物生理学	2		L 2		理
			必	水圏生態学	2		F 2		理
			必	水圏環境学	2		F 2		
			必	水圏植物学	2		F 2		理
			選	進化生態学	2		L 2		理
			選	アクアバイオ学特別講義	2		L 2		
			選	ウォーターフロント論	2		F 2		
			選	水産の法律学	2		F 2		
			選	数理生物学	2		F 2		
選			水産動物発生学	2		L 2		理	
選			水産微生物学	2		L 2		理	
選			プランクトン学	2		L 2		理	
選			水圏の環境情報学	2		L 2		理	
専 門 コ ア 科 目			水産資源分野	選必	水圏資源学	2			L 2
	選必	水産の生態学		2			F 2		
	選	海棲哺乳類学		2		F 2		理	
	選	個体群生態学		2		L 2			
	アクアバイオ分野	選必	魚病学	2			F 2		
		選必	水圏生物化学	2			F 2	理	
		選	基礎分子生物学	2		L 2		理	
		選	基礎遺伝学	2		F 2		理	
	オホーツク水圏環境分野	選必	氷海の生態学	2			F 2	理	
		選必	氷海の環境学	2			L 2		
	選	海洋の環境生物学	2			F 2			
	選	水圏のモニタリング	2			F 2			
総 合 化 の 科 目		必	アクアバイオ基礎実験(一)	2	F L 1			理	
		必	オホーツク臨海実習(一)	1	F L 1				
		必	アクアバイオ基礎実験(二)	2		F L 1		理	
		必	オホーツク臨海実習(二)	1		F L 1			
		必	アクアバイオ専攻実験	2			F L 1		
		必	アクアバイオ演習(一)	1			F 1		
		必	アクアバイオ演習(二)	1			L 1		
		必	アクアバイオ演習(三)	1				F 1	
		必	アクアバイオ演習(四)	1				L 1	
必	卒業論文	4							

\*人間関係分野の科目は4科目中から2科目を選び必修とする。  
 \*社会関係分野の科目は4科目中から2科目を選び必修とする。  
 \*自然関係分野の科目は6科目中から2科目を選び必修とする。  
 \*専門コア科目の選択必修科目を他分野から履修する場合は、選択科目とする。

卒業要件単位数				
必修	選必	専門コア科目	選択	計
56	12	4	52	124



(3) 食品香粧学科授業科目配当表

分野	区分	授業科目	単位	週時間数				備考		
				1年次	2年次	3年次	4年次			
総合教育科目	導入科目	必	フレッシュマンセミナー	2	F 2					
		必	情報基礎(一)	2	F 2					
		必	情報基礎(二)	2	L 2					
	課題別科目	選	特別講義(一)	2	F L 2					
		選	特別講義(二)	2		F L 2				
		選	特別講義(三)	2			F L 2			
		選	特別講義(四)	2			F L 2			
		選	インターナショナル・スタディーズ(一)	2	F 2			メディア		
		選	インターナショナル・スタディーズ(二)	2	L 2			メディア		
		英語科目	必	英語(一)	2	F 2				
	必		英語(二)	2	L 2					
	必		英語(三)	2		F 2				
	必		英語(四)	2		L 2				
	選		英語リーディング(一)	2			F 2			
	選		英語リーディング(二)	2			L 2			
	選		TOEIC英語(一)	2			F 2			
	選		TOEIC英語(二)	2			L 2			
	選		英会話(一)	2	F 2					
	選		英会話(二)	2	L 2					
	選		ビジネス英語	2				L 2		
	選		科学英語	2				F 2		
	学部共通		初修外国語科目	選	中国語(一)	2	F 2			
		選		中国語(二)	2	L 2				
		選		応用中国語(一)	2		F 2			
		選		応用中国語(二)	2		L 2			
		選		ロシア語(一)	2	F 2				
		選		ロシア語(二)	2	L 2				
		全学共通	スポーツ関係科目	選	スポーツ・レクリエーション(一)	1	L 2			
				選	スポーツ・レクリエーション(二)	1	F 2			
			就職準備科目	選	キャリアデザイン	1		F 1		
				選	インターンシップ	1			F L 1	
	演習科目	必	共通演習	1	L 1					
	学部共通	リメディア教育科目	選	基礎生物	2	F 2				
選			基礎化学	2	F 2					
選			基礎数学	2	F 2					
選			文章表現	2	F 2					
専門教育科目	学部専門	必	生物産業学概論	2	F 2					
		必	生物産業体験実習	1	F L 1					
		必	人間と職業	2			F L 2			
		選	バイオテクノロジー概論	2	L 2			理		
		選	スポーツの科学	2			L 2			
	創生型科目	選	オホーツク学	2			F 2			
	学際領域科目	選	現代環境論	2	L 2					
		選	産業気象学	2		F 2				
		選	食品開発論	2		F 2				
		選	生物産業ビジネス論(一)	2		F 2				
選		生物産業ビジネス論(二)	2			L 2				

- 注) ・区分欄の必は必修科目、選必は選択必修科目、選は選択科目を表す。  
・週時間数欄のFは前学期配当科目、Lは後学期配当科目、FLは通年配当科目を表す。  
・備考欄の「理」は中学校及び高等学校教諭(理科)の一種免許状取得に関する選択科目を表す。  
なお「理」は同免許状取得に関する必修科目である。  
・備考欄の「メディア」はマルチメディアを利用した遠隔授業を表す。  
・中国語(一)・(二)およびロシア語(一)・(二)はいずれか一カ国語に限り選択することができる。  
・授業科目配当表に記載してある各科目の配当学期・配当学年は年度により変更することがある。

分野	区分	授業科目	単位	週時間数				備考	
				1年次	2年次	3年次	4年次		
学 科 基 礎 科 目	人間関係 科目*	選必 コミュニケーション学・心理学	2	F 2					
		選必 宗教と人間	2	L 2					
		選必 倫理学	2		F 2				
		選必 文学・芸術	2		L 2				
	社会関係 科目*	選必 日本国憲法	2	F 2					
		選必 北方地域の歴史と文化	2		F 2				
		選必 地域とビジネス	2		F 2				
		選必 生物産業経営史	2		L 2				
	自然関係 科目*	選必 化学	2	F 2				(理)☆	
		選必 数学	2	L 2					
		選必 生物学	2	F 2				(理)	
		選必 地学	2	L 2				(理)	
		選必 統計学	2		L 2				
		選必 物理学	2		F 2			(理)	
	専 門 教 育 科 目	専門基礎科目	必 食品香粧学概論	2	F 2				
			必 有機化学(一)	2	L 2				理☆
			必 分析化学(一)	2	F 2				理☆
			必 生物化学(一)	2		F 2			理☆
			必 微生物学	2		F 2			理
			必 栄養学	2		L 2			
必 食品化学			2		F 2			理☆	
必 食品衛生学			2		L 2				
必 食品製造学			2			F 2			
必 生物有機化学			2		F 2			理☆	
必 分析化学(二)			2	L 2				理☆	
必 無機化学			2	L 2				理☆	
必 香料化学			2		L 2			☆	
必 食品高分子化学			2		L 2			理☆	
必 応用微生物学			2		L 2			理	
必 化学計算演習			2		FL2			理	
必 食品工学			2			L 2			
選 食香粧品物性学			2			L 2			
選 食品機能学		2			L 2		理		
選 物理化学		2		L 2			理☆		
選 原料生産学		2	FL2						
選 応用統計学		2			L 2				
選 アグリフードシステム論		2			F 2				
専門コア科目		必 原科学	2	F 2					
		必 生物資源の利用と加工	2		L 2				
		必 品質管理学	2			F 2			
		必 消化器と皮膚の生理学	2			F 2			
		必 香粧品科学	2			F 2			
	選 官能評価学	2			F 2				
	選 香粧機器分析学	2			F 2				
	選 生物化学(二)	2		L 2			☆		
選 薬理毒性学	2			L 2					
総合化の科目	必 食品香粧品産業学実習	1			FL2				
	必 有機化学実験	2	L 4				理☆		
	必 分析化学実験	2	F 4				理☆		
	必 微生物学実験	2		F 4					
	必 生物化学実験	2		L 4			理☆		
	必 香粧品製造学実習	2			L 4				
	必 食品化学実験	2		F 4			理☆		
	必 食品製造学実習	2			L 4				
	必 衛生学実験	2			F 4				
	必 食品香粧体験実習	1	L 2						
	必 食品香粧学研究演習	1	F L 1				理		
	選 香粧機器分析実験	2			F 4				
必 卒業論文	4								

\*人間関係分野の科目は4科目中から2科目を選び必修とする。  
 \*社会関係分野の科目は4科目中から2科目を選び必修とする。  
 \*自然関係分野の科目は6科目中から2科目を選び必修とする。

卒業要件単位数			
必修	選必	選択	計
87	12	25	124

## (4) 地域産業経営学科授業科目配当表

分	野	区分	授 業 科 目	単 位	週 時 間 数				備 考		
					1年次	2年次	3年次	4年次			
総 合 教 育 科 目	全 学 共 通 教 育 科 目	導 入 科 目	必	フレッシュマンセミナー	2	F 2					
			必	情報基礎(一)	2	F 2					
			必	情報基礎(二)	2	L 2					
		課 題 別 科 目	選	特別講義(一)	2	F L 2					
			選	特別講義(二)	2		F L 2				
			選	特別講義(三)	2		F L 2				
			選	特別講義(四)	2		F L 2				
	選		インターナショナル・スタディーズ(一)	2	F 2				メディア		
	選		インターナショナル・スタディーズ(二)	2	L 2				メディア		
	英 語 科 目	必	英語(一)	2	F 2						
		必	英語(二)	2	L 2						
		必	英語(三)	2		F 2					
		必	英語(四)	2		L 2					
		選	英語リーディング(一)	2			F 2				
		選	英語リーディング(二)	2			L 2				
		選	TOEIC英語(一)	2			F 2				
		選	TOEIC英語(二)	2			L 2				
		選	英会話(一)	2	F 2						
		選	英会話(二)	2	L 2						
		選	ビジネス英語	2				L 2			
		選	科学英語	2				F 2			
	学 部 共 通	初 修 外 国 語 目	選	中国語(一)	2	F 2					
			選	中国語(二)	2	L 2					
			選	応用中国語(一)	2		F 2				
			選	応用中国語(二)	2		L 2				
			選	ロシア語(一)	2	F 2					
			選	ロシア語(二)	2	L 2					
	全 学 共 通	ス ポ ー ツ 関 係 科 目	選	スポーツ・レクリエーション(一)	1	L 2					
			選	スポーツ・レクリエーション(二)	1	F 2					
		就 職 準 備 目	選	キャリアデザイン	1		F 1				
			選	インターンシップ	1			F L 1			
			選	ビジネスマナー	1		L 1				
	演 習 科 目	必	共通演習	1	L 1						
学 部 共 通	リ メ デ イ ア ル 教 育 科 目	選	基礎生物	2	-	-	-	-	-		
		選	基礎化学	2	-	-	-	-	-		
		選	基礎数学	2	F 2						
		選	文章表現	2	F 2						
専 門 教 育 科 目	専 門 共 通 科 目	必	生物産業学概論	2	F 2				社 公		
		必	生物産業体験実習	1	F L 1						
		必	人間と職業	2			F L 2				
		選	バイオテクノロジー概論	2	L 2						
		選	スポーツの科学	2			L 2				
	創 生 型 科 目	選	オホーツク学	2			F 2				
	学 際 領 域 科 目	選	現代環境論	2	L 2						
		選	産業気象学	2		F 2					
		選	食品開発論	2		F 2					
		選	生物産業ビジネス論(一)	2		F 2				社 公	
選		生物産業ビジネス論(二)	2			L 2			社 公		

分野	区分	授業科目	単位	週時間数				備考		
				1年次	2年次	3年次	4年次			
専門教育学科専門	学 科 基 礎 科 目	人間関係 科目*	選必	コミュニケーション学・心理学	2	F 2				社 公
			選必	宗教と人間	2	L 2				社 公
			選必	倫理学	2		F 2			(社)(公)
			選必	文学・芸術	2		L 2			
		社会関係 科目*	選必	日本国憲法	2	F 2				(社)(公)
			選必	北方地域の歴史と文化	2		F 2			
			選必	地域とビジネス	2		L 2			
			選必	生物産業経営史	2		L 2			社 公
		自然関係 科目*	選必	化学	2	F 2				
			選必	数学	2	L 2				
			選必	生物学	2	F 2				
			選必	地学	2	L 2				
			選必	統計学	2	L 2				
			選必	物理学	2		F 2			
		専 門 基 礎 科 目	必	地域産業経営学概論	2	F 2				
	必		経営学総論(一)	2	F 2					社 公
	必		経営学総論(二)	2	L 2					社 公
	必		ミクロ経済学	2	F 2					社 公
	必		マクロ経済学	2	L 2					社 公
	必		簿記(一)	2	F 2					
	必		簿記(二)	2	L 2					
	必		経営数学	2	F 2					
	必		会計学	2		F 2				社 公
	必		経営管理論	2		L 2				社
	必		社会調査論	2	L 2					社 公
	必		マーケティング論	2		F 2				社 公
	必		地域産業経営論	2		L 2				
	必		地域産業経営学実習(一)	1	F 1					
	必		地域産業経営学実習(二)	1		F 1				
	選		現代の管理会計	2			L 2			社
選	財務管理論		2			F 2				
選	環境経済学		2		F 2				社 公	
選	環境ビジネス論		2		L 2					
選	解析学入門		2	L 2						
選	経営統計分析		2		F 2					
選	経済と法		2		L 2				社 公	
選	社会と法		2		F 2				社 公	
選	ソフトウェア応用		2		F 2					
選	中国語(三)		2		F 2					
選	中国語(四)	2		L 2						
選	産業経営学実務演習(一)	2		F L 2						
選	産業経営学実務演習(二)	2			F L 2					
選	社会調査実習(一)	1			F 2					
選	社会調査実習(二)	1			L 2					
選	オホーツク産業実習	1		F 2						

分野	区分	授業科目	単位	週時間数				備考
				1年次	2年次	3年次	4年次	
専門 教育 科目	専 門 コ ア 科 目	選必	経営組織論	2		F 2		
		選必	経営分析論	2			L 2	社 公
		選必	戦略的マーケティング論	2			F 2	
		選必	ビジネスモデル戦略論	2			L 2	
		選必	ビジネス情報システム論	2		F 2		
		選必	ビジネス情報ネットワーク論	2		L 2		
		選必	地域ビジネス論	2			F 2	
		選必	地域ビジネスゲーム	2			L 2	
		選必	地域環境政策論	2			F 2	
		選必	地域活性化システム論	2		F 2		社 公
		選必	地域産業創成学	2			F 2	
		選必	北海道産業論	2		L 2		社 公
		選必	生物産業技術論	2			L 2	
		選必	アグリフードシステム論	2			F 2	社 公
	専門実 用科目	選	哲学	2		F 2		ⒶⒷ
		選	法律学	2	F 2			ⒶⒷ
		総 合 化 の 科 目	必	基礎ゼミナール	2	F L 2		
			必	地域産業経営学ゼミナール(A)	2		F L 2	
			必	地域産業経営学ゼミナール(B)	2		F L 2	
			必	地域産業経営学ゼミナール(C)	2			F L 2
	必		地域産業経営学ゼミナール(D)	2			F L 2	
	必		卒業論文	4				

卒業要件単位数				
必修	選必	専門コア科目	選択	計
62	12	16	34	124

- \*人間関係分野の科目は5科目中から2科目を選び必修とする。
- \*社会関係分野の科目は4科目中から2科目を選び必修とする。
- \*自然関係分野の科目は6科目中から2科目を選び必修とする。
- \*専門コア科目の選択必修科目について8科目16単位の履修が必要である。
- \*専門コア科目の選択必修科目を8科目を越えて履修した場合の修得単位は 選択科目に繰り込まれる。

- 注) ・区分欄の必は必修科目、選必は選択必修科目、選は選択科目を表す。  
 ・週時間数欄のFは前学期配当科目、Lは後学期配当科目、F Lは通年配当科目を表す。  
 ・備考欄の「Ⓐ」は中学校教諭(社会)の一種免許状取得に関する必修科目、「社」は選択科目、「Ⓑ」は高等学校教諭(公民)の一種免許状取得に関する必修科目、「公」は選択科目を表す。  
 ・備考欄の「メディア」はマルチメディアを利用した遠隔授業を表す。  
 ・中国語(一)・(二)およびロシア語(一)・(二)はいずれか一カ国語に限り選択することができる。  
 ・応用中国語(一)・(二)および中国語(三)(四)を履修するには中国語(一)・(二)の単位を修得しなければならない。  
 ・授業科目配当表に記載してある各科目の配当学期・配当学年は年度により変更することがある。  
 ・学科専門実用科目に配当されている「哲学」「法律学」は教職課程履修者のみ履修することができる。  
 ただし、学科の卒業要件に含まれないので注意すること。



## (5) 全学共通科目

### 1) 日本語

- 日本語は、外国人留学生および帰国子女に限り履修することができます。
- 日本語の修得単位は、選択科目の単位として卒業要件単位に加えることができます。

科目 区分	授業科目	単 位 数	週時間数				備 考
			一 年 次	二 年 次	三 年 次	四 年 次	
選択 科目	日本語（一）	2	F2				①履修することができる者は、外国人留学生および帰国子女に限る。
	日本語（二）	2	F2				②修得単位は、選択科目の単位として卒業要件単位に加えることができる。

### 2) 英語による専門教育プログラム科目

#### ① プログラム名

Special Program (Conducted in English) : Agriculture, Food and Environment

#### ② 目的

本学には、多数の留学生および海外姉妹校からの交換留学生を受け入れており、本学の高度な専門教育を効率的に学習させるためには授業が望ましいと考えられます。さらに、国際社会に飛び立つ日本人学生にとっては英語で専門分野を理解する能力が不可欠です。このようなグローバル化時代に対応した大学教育の必要性から本プログラムを実施します。

#### ③ 内容

本学は、食料、環境、健康、資源エネルギーという人類の課題に対して、農学および関連領域から貢献する人材の育成を目指しています。3キャンパス5学部18学科体制の下で専門的な教育研究を実施し多大な成果をあげてきましたが、これらの課題は相互に関連するもので、学際的アプローチも重要です。たとえば食料問題は食料の生産・分配・消費に関する諸問題の総称ですが、食料生産は農業や食品加工業によって遂行され、自然環境、農業技術、食品加工技術などと深く関わってきます。分配は市場経済メカニズムだけでなく保蔵技術の改良によって流通範囲が拡大しつつあります。消費には所得水準のみならず地域固有の食文化が反映されます。

近年の人口増加に見合う食料の増産は現代農学の顕著な成果でしたが、同時に環境負荷の増大や食の安全性の危惧が表面化してきました。今日、環境保全や安全食料の確保の必要性が世界的規模で認識されています。そこで、農業、食料、環境について、広義の農学的視点から基礎知識の修得を目指す全学共通プログラムを開講します。

まさに、食料と環境についての基礎知識を総合的に習得することは、21世紀の人類繁栄に貢献することにつながります。修得者の国際貢献を推進するため、世界共通語である英語を使用言語として実施します。国際的な活動を志向する日本人学生の英語力と専門的知識の向上を図るとともに、特に欧米などからの留学生や海外姉妹校からの交換留学生にとっては、日本やアジアの食料・農業・農村・環境・文化を概観できる機会となるよう講義・見学などの内容に配慮します。

#### ④ 開講科目

後掲の科目一覧表のとおり

⑤ 本プログラムの特徴

i) すべて英語による授業

本プログラムは、本学の専門教育をすべて英語によって実施するものです。単に語学教育のプログラムではないので注意して下さい。

ii) すべての学生を対象に開講

本プログラムは5学部全学科を対象としたオープンプログラムで、開講学年はフリーです。

フィールドスタディ等学外で実施する科目を除き、当面の開催場所は以下の通りです。

「Introduction to Bioindustry」と「Eastern Hokkaido:Identifying Opportunities in a Region of Declining Population」はオホーツクキャンパスで開催する。

「Ecology and Agricultural Production」は、厚木キャンパスで開催する。その他の科目については、世田谷キャンパスで開催する。

iii) BasicからAdvancedまで開講

本プログラム科目は、比較的やさしいレベルの科目からより高度なレベルの科目まで開催されます。自分の英語力にあわせて履修を考えて下さい。

iv) 授業の開講について

各講義科目は、半期で週1時限（1コマ）開講の2単位です。

履修については、次項の科目とあわせて、必ず留意事項を確認してください。

v) 修得単位数について

学則第15条の3に規定するとおり、他学科・他学部聴講により修得した単位との合計修得単位のうち30単位までを選択科目として卒業要件単位に加えることができます。

vi) 試験について

通常の授業時間に実施します。

vii) 視察、演習、実験・実習およびフィールドスタディは実費を徴収します。

⑥ 履修上の注意事項

自分の英語能力にあわせて履修を考えましょう。学年を問わずいつでも履修できますので、英語能力アップを計った上で履修が可能です。

**Special Program (Conducted in English): Agriculture, Food and Environmentの科目一覧**

(平成27年度)

科 目 名	配当 学年	配当 学期	単位 数	担 当 教 員
<b>Basic (recommended for 1~2 Year students)</b>				
Environment and Agriculture	1~4	F	2	三原真智人(工学)、藤川智則(工学)、島田沢彦(工学)、鈴木伸治(工学) 渡邊文雄(工学)、小梁川雅(工学)、川名太(工学)、佐々木豊(工学)
Food and Environment in Economic Development	1~4	F	2	板垣啓四郎(開発)、高根務(開発)
Life history and Applications of Landscape Plants ※2	1~4	F	2	高橋新平(造園)、鈴木貢次郎(造園)、水庭千鶴子(造園)
Japanese Agricultural Development	1~4	F	2	鈴木充夫(ビジネス)、新部昭夫(ビジネス)、畑中勝守(ビジネス)、平尾正之(ビジネス) 土田志郎(ビジネス)、木原高治(ビジネス)、渋谷征男(ビジネス)、井形雅代(ビジネス)、 鈴木源太郎(ビジネス)、山田崇裕(ビジネス)、泉田洋一(ビジネス)、大久保研治(ビジネス)
Comparative Developing Agriculture	1~4	L	2	稲泉博己(ビジネス)、下口ニナ、Murari Suvedi
Forest and Forestry ※1	1~4	F	2	佐藤孝吉(森林)、中村幸人(森林)、橘隆一(森林)、上原巖(森林) 江口文陽(森林)、O.B.N.Campbell

科 目 名	配当 学年	配当 学期	単 位 数	担 当 教 員
Farmers and Consumers in Japan	1~4	L	2	杉原たまえ(開発)、岩本純明(開発)
Ecology and Agricultural Production	1~4	L	2	山部能宜(農学)、安藤元一(セラピー)、嶺井毅(セラピー)、森田茂紀(農学)
Comparative Nature Study from Cultural Perspective ※2	1~4	F	2	福島菜穂子(国際)
<b>Intermediate</b> (recommended for 2~3 Year students)				
Introduction to Bioindustry	1~4	F	2	小栗秀(生産)、亀山祐一(生産)、中丸康夫(生産)、寺澤和彦(生産)、白井滋(アクア)渡邊研一(アクア)、小林万里(アクア)、朝隈康司(アクア)、中川純一(食香)丹羽光一(食香)、相根義昌(食香)、中澤洋三(食香)、笹木潤(産経)坂田圭子(産経)、上田智久(産経)
Eastern Hokkaido:Identifying Opportunities in a Region of Declining Population	1~4	L	2	Douglas Braat、中川純一(食香)、野村比加留(産経)、白木彩子(生産)、千葉晋(アクア)、塩本明弘(アクア)
<b>Advanced</b> (recommended for 3~4 Year students)				
Food and Health 1	1~4	F	2	額田恭郎(醸造)、田中越郎(栄養)、山本祐司(化学)、服部一夫(栄養)、内野昌孝(化学)、小林謙一(化学)、樋口恭子(化学)、石川森夫(醸造)、辻井良政(化学)
Food and Health 2	1~4	L	2	上原万里子(健康)、阿久澤さゆり(健康)、富澤元博(栄養)、高橋信之(健康)、岩槻健(健康)、清水誠(栄養)、中江大
Molecular Biology and Biotechnology	1~4	L	2	林隆久(バイオ)、吉川博文(バイオ)、河野友宏(バイオ)、千葉櫻拓(バイオ)、矢嶋俊介(バイオ)、喜田聡(バイオ)、坂田洋一(バイオ)、小川英彦(バイオ)、川崎信治(バイオ)、尾畑やよい(バイオ)、太治輝明(バイオ)、三浦大樹(バイオ)、福島穂高(バイオ)、佐々木康幸(バイオ)、渡辺智(バイオ)、伊藤晋作(バイオ)
Agro-Environmental Engineering ※4	1~4	L	2	渡邊文雄(工学)、三原真智人(工学)、藤川智紀(工学)、島田沢彦(工学)、鈴木伸治(工学)、小梁川雅(工学)、村松良樹(香粧)
Planning and Design of Landscape Architecture ※2	1~4	F	2	荒井歩(造園)、阿部伸太(造園)、栗田和弥(造園)、服部勉(造園)
Vegetable Production Technologies for International Cooperation	1~4	F	2	志和地弘信(開発)、小塩海平(開発)、真田篤史(開発)
Global Food Systems	1~4	F	2	高柳長直(経済)、吉野馨子(経済)、林正徳
Agricultural Trade	1~4	L	2	金田憲和(経済)、林正徳
Ecology and Food Production	1~4	L	2	宮浦理恵(ビジネス)、S.M.F.Culumpang, Murari Suvedi
Comparative Food Production Technologies	1~4	L	2	中西康博(国際)、夏秋啓子(開発)、入江憲治(開発)、足達太郎(開発)、入江満美(開発)、S.M.F.Culumpang, Pachakkil Babil(開発)
Edo Aesthetics Environmental Resiliency ※2	1~4	L	2	福島菜穂子(国際)
<b>Common</b> (recommended for 1~4 Year students)				
Agricultural Scientific English for International Cooperation	1~4	L	2	小塩海平(開発)、志和地弘信(開発)、S.M.F.Culumpang, Pachakkil Babil(開発)、Murari Suvedi
Field Study of Food and Environment ※3 ※5	1~4	F	2	稲泉博己(ビジネス)、志和地弘信(開発)、Catelo, Murari Suvedi
Sustainable Agriculture in Asia ※5	1~4	F	2	稲泉博己(ビジネス)、志和地弘信(開発)、Catelo, Murari Suvedi
Group Approach to Food and Environment ※6	1~4	L	2	志和地弘信(開発)、Murari Suvedi

留意事項

- ① ※1 実習を伴う ② ※2 視察を行う ③ ※3 視察を行う 「Japanese Agricultural Development」を併せて履修すること。
- ④ ※4 前期の「Environmental and Agriculture」を履修していることが望ましい。
- ⑤ ※5 履修希望者は、5月頃に学生ポータル募集案内を確認する。科目実施は、7月に1週間集中実習を行う。  
該当する2科目(※5)を同時に履修すること。希望者は、必ず国際協力センターに申し出ること。履修登録は国際協力センターが行う。
- ⑥ ※6 「世界学生サミット」の座長もしくは発表者のみが履修できる。

フィールドスタディ等学外で実施する科目を除き、当面の開講場所は以下のとおりです。

「Introduction to Bioindustry」と「Eastern Hokkaido:Identifying Opportunities in a Region of Declining Population」はオホーツクキャンパスで開講する。

「Ecology and Agricultural Production」は、厚木キャンパスで開講する。その他の科目については、世田谷キャンパスで開講する。

## 各学部、各学科及び課程の目的

各学部、各学科及び課程においては、建学の理念に基づき、人材育成と教育研究の面からそれぞれの目的を以下のとおり定めている。

### 生物産業学部

本学部は、人類生存の基である生物産業にかかわる生産、加工、流通、ビジネスを取り巻く自然科学的・社会経済的現象を教育・研究の対象とした生物産業学を基盤として、文理融合の教育体系のもとで、生命・食料・資源・環境問題に関する深い知識を持ち、その解決方向を示すことができ、地域社会・国際社会に貢献しうる人材を養成します。

したがって、本学部は食料自給や環境保全など人類共通の課題に興味を持ち、問題解決に向けて意欲的にチャレンジし、生物産業の発展に寄与すると共に、広く社会に貢献できる人材を求めています。

### 生物生産学科

本学科は、多様な陸圏領域の教育・研究が実践できるように配置した植物系、動物系、資源・環境系の分野において、新しい生物資源の開発や多様な環境に配慮した生物生産力の拡大、生物資源機能の新しい応用などにかかわる理論と技術を教育研究し、国際的な視点で地域産業の発展に貢献できる人材を養成します。

したがって、本学科は食料資源や自然資源の宝庫であるオホーツク圏において、食料資源の生産、管理、生態系の保全、生物資源の機能などに興味を持ち、21世紀人類の課題である人と自然との調和に基づく食料自給率の向上や自然資源の保全に貢献できる意欲的な人を求めます。

### アクアバイオ学科

本学科は、豊かな生態系と高い生産性に恵まれたオホーツク海を主たる場として、資源の生物学的知見と、それを育む水圏の環境及び生態系にかかわる知見とを統合的に理解させることを教育研究の目標とし、水圏環境の保全、水産資源の増養殖、解析、管理、未利用資源の開発、漁獲物の利用加工や流通等資する人材を養成します。

したがって、水圏の生物や生態系そして環境はもちろん、これらの保全などにも興味を持ち、オホーツク海から地球全体の生物、生態系や環境に関する問題の解決に積極的にチャレンジする意欲のある人を求めます。

### 食品香粧学科

本学科は、雄大な自然の下で豊かな感性を育みながら、食・健康産業における素材の性質や機能、製造原理などの基礎から応用までを、講義・実験・実習を通じ、体験的に理解・修得し、新たな製品開発ができるスキルを身につけ、豊かな感性と幅広いスキルで食と健康の問題に対応できる人間力あふれた、21世紀の食品、香粧品、医薬品産業を担う人材を養成します。

したがって、本学科は、自然や食、香り、健康などに興味を持ち、様々な視点から、食や香粧を通じた体の内外からの健康のサポートや、物心両面における生活の豊かさ向上に向けてチャレンジする、意欲的な人を求めます。

### 地域産業経営学科

本学科は、農林水産業、食品加工業、自然を活かした観光業、環境ビジネスなど、地域産業を支える経営を実践するための経営学理念を修得するとともに、生物産業を中心とした経営体の持続的発展、産業間連携の支援を通じて地域産業の再生・活性化・創造に貢献し、地域産業の担い手たる人材をオホーツクの地・産業をフィールドとして養成する。

### 教職・学術情報課程

本課程は、知識・品位・技術を兼ね備えた熱意あふれる教員並びに博物館・図書館等における各種情報の調査・収集・整理・保管・検索・提供等の実務に取り組む実践的かつ専門的知識を身につけた学芸員及び司書を養成する。

# Ⅲ オホーツク学術情報センター利用案内

## はじめに

学問をしていく上で大切なことのひとつは、その分野の研究成果を知り適切な情報を数多く入手することです。オホーツク学術情報センターはこのための学習や調査研究などの様々な情報提供に定める情報基盤施設です。

専門図書・学術雑誌のほか、視聴覚（ビデオ・DVD）資料、CD-ROMなど様々なメディアに加え、各種電子ジャーナルやインターネットなども随時利用できる環境を整えていますので、是非活用して下さい。

また、センターでは、学部8号館3階にあるコンピュータ演習室・コンピュータ実習室の管理・運用も担っています。これら教室設備は、授業などでの占有時間を除き、自学・自習を目的とする個人利用（公開利用）に供していますので合わせてご利用下さい。

\*本書のほか、センター利用に関する詳細は、以下URLのセンターホームページを参照して下さい。

**<http://www.bioindustry.nodai.ac.jp/~library/index.html>**

## ○利用者カード

資料の貸出・返却・予約などは、全てコンピュータで処理されるため、利用の際には必ず「学生証」が必要となります。また、センター内のコンピュータ機材や各種ネットワークサービスを利用する際には、「情報関連設備公開利用許可証」記載の利用者とIDパスワードが必要となっています。

※学生証の申請や発行、交付の窓口は、学生教務課となります。

※情報関連公開利用許可証は、所定の講習会を受講し、情報関連設備公開利用申請書により申請された方を対象に、センターより交付します。なお、申請や発行、交付の窓口は学生教務課となります。

## ○利用時間

午前8:30～午後6:00

※規程上は午後5時までですが、原則として授業のある平日は1時間の延長サービスを行っています。

※開館時間を短縮・延長する場合は、事前にホームページなどでお知らせします。



## ○休館日

1. 土曜日※・日曜日
2. 国民の祝日に関する法律に規定する日
3. 学校法人の創立記念、大学の記念日
4. 長期休暇中の一定期間
5. その他臨時に必要なあるとき

※授業のある土曜日は開館します。

※臨時の開館や休館については事前にホームページなどでお知らせします。

## ○入退館時の注意

1. 入退館時の手続きは必要ありません。手荷物の持ち込みも自由ですが、各自の責任の元に管理して下さい。
2. 飲食物は持ち込まないで下さい。(館内飲食禁止)
3. 冬季・雨天の際、靴や衣服についた雪・泥などは落としてから入館して下さい。
4. 傘は1階風除室の傘立てに収納して下さい。

## ○利用の心得

1. 他の利用者の迷惑となる行為は慎み、学習・研究の良好な環境維持にご協力下さい。
2. 図書・資料、機械器具その他の設備を汚損、破損しないで下さい。
3. 携帯電話、音の出る携帯通信機器は、音が出ないようにしておいて下さい。また、館内での通話はしないで下さい。
4. 施設内は、全て禁煙です。トイレなどでの喫煙は絶対にしないで下さい。
5. 施設内では静粛を保つようご協力下さい。

## ○閲覧について

センターでは、図書・資料、学術雑誌、視聴覚資料、新聞、一般誌(週刊誌)などを利用者が直接手にして、自由に閲覧することができる、「完全開架制」を採用しています。

資料の種類毎に配架場所が異なりますので、書架案内などを適宜参照して下さい。なお、センターが所蔵する資料は、コンピュータによってデータ管理されており、OPAC(オーパック/Online Public Access Catalog)にて速やかに検索できます。

閲覧席は、1階と2階にあります。それぞれに閲覧テーブルや閲覧キャレルが設置されているほか、一般誌や新聞コーナー、雑誌コーナー付近には、ブラウジング用ソファなども設置されています。

また、1階には、CD-ROMやDVDに代表される電子化資料やインターネットが利用できる環境を整えた、マルチメディア情報コーナーなども設けています。



なお、書籍など従来型紙媒体資料に加え、インターネットや電子化メディアなどの電子媒体資料をフレキシブルに活用できるスペースとして、2階閲覧室及び2階教員閲覧室、情報学習室、2階書庫内に、コンピュータと閲覧キャレルを組み合わせた「情報化対応キャレル」を設置しています。

## ○貸出・返却・予約について

1. 禁帯出指定以外の図書・資料については、1階カウンターにて所定の手続きを受け、館外貸出サービスが受けられます。
2. 貸出手続きの際は必ず「学生証」を提示して下さい。
3. 貸出冊数と期限は次のとおりです。貸出期限は厳守して下さい。  
学生 1人10冊まで2週間以内 大学院生 1人10冊まで4週間以内
4. 返却は、1階カウンターへ持参するか、2階回廊の返却ポストへ投函して下さい。
5. 返却には処理手続きが必須ですので、直接自分で書架に戻さないようにして下さい。
6. 次の予約がない場合に限り再貸出も可能です。
7. 利用したい図書・資料が貸出中の場合は、OPAC画面から直接予約ができます。

※貸出手続きされていない資料を持ち出すと出口のドアがロックされアラームが鳴ります。

※貸出資料の又貸しは絶対にしないで下さい（貸出登録者の賠償責任となります）。

※返却期限の超過が一ヶ月以上となった場合、貸出を停止します。

※万一、破損・汚損、紛失した場合には速やかにカウンターへ申し出て下さい。

## ○複 写

1階にコイン式電子複写機1台を設置しています。センター所蔵資料について、著作権の範囲内で複写することができます。なお、複写はセルフサービスとなっています。

※利用に際し著作権に係る一切の責任は利用者自身が負うものとなります。

※センターでの両替は行っていませんのであらかじめご了承ください。

※複写機は学内売店の所管品です。クレーム等は売店までお願いします。

## ○レファレンスサービス

1. センターの利用に関する質問・相談に応じます。
2. 解答を導き出すための資料について、各種情報リソースの提供や援助を行います。
3. センターに所蔵していない資料について、文献の複写・貸借依頼などを行います。

※OPAC画面サービスメニューからオンラインで申し込んで下さい。

※費用は実費負担となります。

4. 他大学図書館などを利用する際に必要な「紹介状」を発行します。カウンター備え付けの申込用紙にて申し込んで下さい。

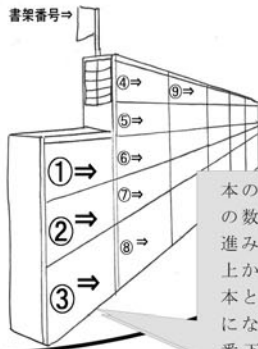




種別	内容	配架場所
参考和図書	辞書・事典・ハンドブック類	1階 第二書庫
参考洋図書	同上	1階 第二書庫
指定図書	教員推薦サブテキスト類	1階 第二書庫
統計書	白書・統計資料	2階 書庫(奥)
一般和図書	上記以外の図書資料類	1・2階 書架

注意  
 ■サイズによる別置：新書・文庫→小型図書架、高さ27cm以上→大型図書架  
 ■比較的古いものや重校本は順次1階から2階書庫へ移動

一般洋図書	同上	2階 集密書庫
学術雑誌(カレント)	最新到着分から雑誌架に収納可能な分	1階 雑誌架
学術雑誌(バックナンバー)	雑誌架に収納不可となった分(製本を含む)	2階 集密書庫
視聴覚資料	ビデオ(VHS)	1階 ビデオ架(第一書庫)
	DVD(Digital Video Disc)	1階 DVD架
新聞(カレント)	最新到着分	1階 新聞架
新聞(バックナンバー)	上記以外(後述)保存分	2階 新聞コンテナ(集密書庫)
一般雑誌	一般週刊誌・月刊誌	1階 一般誌架



本の並びは、左から右へ分類番号の数字の小さい方から大きい方へ進みます。書棚は、左から右へ、上から下へ1棚、1連、1面を基本として、ひとつの棚がいっぱいになったらその下の棚に並び、一番下の棚までいっぱいになったら、その右上の棚に並びます。

**【集密書架】**  
 学術雑誌(バックナンバーなど)や洋図書、中国書、ロシア書、白書・統計類が置かれています。  
 ※雑誌は分類番号でなく誌名の「あいうえお(和)」「ABC(洋)」順に並んでいます

**【新聞】**  
 過去3ヶ月のバックナンバーを保管しています。

**【2階移動書架】**  
 古い資料や利用頻度の比較的低い一般和図書が置かれています。

**【情報学習室】**  
 簡易講習会などに使いますが、普段は自由に使用できます。

**【教員閲覧室】**  
 普段は学生の皆さんも使用できます。

**【返却ポスト】**  
 こちらからも返却することができます。  
 ※ただし返却処理は翌日になります

## 学術情報センター2階

## IV 国際教育プログラム・外国人留学生支援

国際協力センターは世界24カ国・地域に点在する海外協定校や関連機関との間で語学や農業に関する研修や異文化理解、異国民間交流を通じて国際社会に貢献できる専門知識や技術のみならず幅広い知識をもつ人材を育成するための各種の国際教育プログラムを展開させ、多くの学生へ参加を推進しています。一方、外国人留学生を受入れ、有意義な学生生活を送れるよう様々な支援を行っています。なお、オホーツクキャンパスにおいては学生教務課が担当しています。

### 国際教育プログラム

現在、本学の海外協定校は世界24カ国・地域に広がり年間100名以上の本学学生が各自の興味や目的に合わせて各海外協定校や関連機関に派遣しています。

国・地域	大学名	協定締結年月日
アメリカ合衆国	ミシガン州立大学 Michigan State University, MSU	1966年(昭和41年)1月12日
タイ王国	カセサート大学 Kasetsart University, KU	1988年(昭和63年)6月9日
カナダ	ブリティッシュコロンビア大学 The University of British Columbia, UBC	1988年(昭和63年)7月20日
中華人民共和国	中国農業大学 China Agricultural University, CAU	1988年(昭和63年)8月22日
台湾	国立中興大学 National Chung-Hsing University, NCHU	1992年(平成4年)6月11日
インドネシア共和国	ボゴール農科大学 Bogor Agricultural University, IPB	1996年(平成8年)8月2日
ペルー共和国	ラ・モリーナ国立農業大学 Universidad Nacional Agraria La Molina, UNALM	1996年(平成8年)8月2日
モンゴル国	モンゴル生命科学大学 Mongolian University of Life Sciences, MULS	1996年(平成8年)8月12日
フィリピン共和国	フィリピン大学ロスバニオス校 University of the Philippines Los Banos, UPLB	1996年(平成8年)9月11日
大韓民国	国立慶北大学 Kyungpook National University, KNU	1998年(平成10年)4月28日
イスラエル国	ヘブライ大学 The Hebrew University of Jerusalem, HUJI	1998年(平成10年)9月28日
ベトナム社会主義共和国	ベトナム国立農業大学 Vietnam National University of Agriculture, VNUA	1998年(平成10年)11月19日
ブラジル連邦共和国	サンパウロ大学 Universidade de Sao Paulo, USP	2001年(平成13年)2月22日
メキシコ合衆国	チャピング自治大学 Universidad Autonoma Chapingo, UACH	2001年(平成13年)7月16日
ウクライナ国	ウクライナ国立生命環境科学大学 National University of Life and Environmental Sciences of Ukraine, NUBiP	2003年(平成15年)9月19日
マレーシア国	マレーシアプトラ大学 Universiti Putra Malaysia, UPM	2004年(平成16年)3月16日
フランス共和国	リール農業高等学院 Institut Supérieur d'Agriculture de Lille, ISA	2004年(平成16年)6月16日
フランス共和国	アンジェ農業高等学校 Ecole Supérieure d'Agriculture d'Angers, ESA	2004年(平成16年)6月16日
フランス共和国	ローヌ・アルプ農業栄養高等学院 Institut Supérieur d'Agriculture et d'Agroalimentaire Rhone-Alpes, ISARA	2004年(平成16年)6月16日
フランス共和国	ブルパン技術学校 Ecole d'Ingenieurs de Purpan, INP	2004年(平成16年)6月16日
オランダ王国	ワーヘニンゲン大学 Wageningen University, WU	2004年(平成16年)6月23日
フランス共和国	ボーベ・ラサール・ポリテクニク学院 Institut Polytechnique LaSalle Beauvais, IPLB	2007年(平成19年)8月27日
タンザニア連合共和国	ソコイネ農業大学 Sokoine University of Agriculture, SUA	2009年(平成21年)4月6日
カンボジア王国	王立農業大学 Royal University of Agriculture, RUA	2011年(平成23年)4月1日
ブラジル連邦共和国	アマゾニア農業大学 Universidade Federal Rural Da Amazonia, UFRA	2013年(平成25年)3月7日
グレートブリテン及び北アイルランド連合王国	レディング大学 University of Reading, UoR	2013年(平成25年)5月1日
ジブチ共和国	ジブチ大学 Djibouti University, DU	2013年(平成25年)6月1日
ラオス人民民主共和国	ラオス国立大学 National University of Laos, NUOL	2014年(平成26年)3月13日
アメリカ合衆国	コーネル大学 Cornell University, Cornell	2014年(平成26年)6月15日
スリランカ民主社会主義共和国	ペラデニア大学 University of Peradeniya, UoP	2014年(平成26年)7月22日

[平成26年8月1日現在]



## 1 インターナショナルスタディーズ（一）（二）

本学では国際感覚を養い世界の人々の一員として活躍できる人材を養成する目的でインターナショナルスタディーズ（一）（二）を全学共通科目として設置しています。インターナショナルスタディーズ（一）は講義を行い、さらに演習として本学で実施している多種多様な国際協力活動の事例を通じて、海外協定校のある国々を中心に、それらの国や地域の問題点と可能性を理解し、自国と世界の国々との協調のあり方を探ります。また、インターナショナルスタディーズ（二）では、本学の海外姉妹校への短期派遣プログラムに参加することにより世界人として不可欠な多様な人々・社会・政治経済・文化に関する理解を深化させます。

## 2 短期派遣プログラム

短期派遣プログラムは、原則として夏期休業中の2週間で実施します。海外協定校の施設に寄宿し海外協定校の学生との交流を行い、農村や農業関連企業などを視察し派遣国の食農環境を学びます。2014年度はカセサート大学、国立中興大学、フィリピン大学ロスバニオス校、中国農業大学、ソコイネ農業大学、ボゴール農科大学、アマゾンニア農業大学、コーネル大学のプログラムを実施しました。この他にブリティッシュコロンビア大学では夏期休業中の3週間と春期休業中の1ヵ月でホームステイをしながら語学を学ぶプログラムを実施しました。また、2015年度は他の海外協定校においても実施を検討しています。この短期派遣プログラムに参加し、所定の手続きを行った場合はインターナショナル・スタディーズ(二)の単位を修得することができます。各プログラムの詳細については、国際協力センターもしくは学生教務課にお問い合わせ下さい。

## 3 長期留学（外国人留学生は応募できません）

このプログラムは、本学成績優秀者に対し奨学金として往復の航空運賃相当額と留学期間中の本学授業料を免除し、海外協定校に1年間または6ヵ月間の留学の機会を与えるものです。派遣学生数は各海外協定校1～4名です。

募集は毎年10月中旬（派遣は翌年8月）に、学部2・3年次生および大学院生（派遣時は学部3・4年次生および大学院生）を対象に行います。選考は学内成績、TOEFLのスコア、作文、心理テスト、語学力、面接を総合的に評価し留学生を決定します。本学からの派遣学生は派遣大学において特別留学生として籍を置き、正規の授業を受講し単位を修得することができます。海外協定大学で修得した単位は帰国後所定の手続きにより学部生は他学部・他学科聴講、大学間履修等により修得できる単位数30単位を超えない範囲で、また大学院生は10単位を上限に卒業要件の単位として認定されます。

- 応募にはTOEFLのスコアが必要です。事前に必ず受験しておいて下さい。申込みから結果を得るまで1ヵ月以上要するので余裕をもって受験して下さい。
- 派遣期間：8月上旬～翌年7月下旬
- 応募資格：学部2・3年次生、大学院博士前期1年生
- 応募人数：各海外協定校1～4名
- 費用：派遣先により異なる（留学期間中の本学授業料は学生諸経費を除き免除）

## 4 アメリカ農業実習

このプログラムは、米国法人International Farmers Aid Association (IFAA) が現地における引受機関となり、本学学生を全米各地の農場に配属します。実習生は、より実践的にアメリカの農業を体験する事ができます。プログラムには配属農場での実習のほかに、約1ヵ月間の英語研修、通算40日間のセミナー、研修旅行等が含まれています。

実習期間は12ヵ月間（毎年3月出発、翌年3月帰国）で、学部3、4年次生および短期大学部2年

次生（編入が決定した者は除く）を対象としています。派遣期間中は授業料が減免免除され学籍上は休学の扱いとなります。

## 5 長期海外学修活動

海外において農業及び農学分野に関連した体験的学修を行うことを促進するために、「東京農業大学教育理念「実学主義」に基づく長期海外学修活動に関する要綱」(p. )を制定しました。

この要綱の趣旨に合った海外学修活動を希望する学生からの申請を学内で審査し、選考された場合には、従来の海外農業実習に対する減免措置が適応されます。

また、海外学修活動期間中は休学となり、復学後に所定の手続きを行うことにより、所定の単位を卒業要件として加えることができます。

募集および選考については、学生ポータル「国際交流情報」をご覧ください。

※農業及び農学分野に関連しない体験的学修、語学留学は対象とならないことを留意する。

## 6 世界学生サミットと世界学生フォーラム

世界学生サミットは2001年11月に「新世紀の食と農と環境を考える世界学生サミット」をテーマとして本学学生（外国人留学生を含む）と海外協定校学生が世田谷キャンパスに参集して2日間にわたり、人類が直面する深刻な諸問題に関する意見・情報交換および彼ら自身の役割について討論する国際会議として発足しました。翌年2002年には世界をつなぐ学生間のネットワーク化を進める宣言の下、本学と海外協定校学生で構成された組織である世界学生フォーラム (ISF) を立ち上げ、日頃より各国の食・農・環境について情報交換・討議をしながら次回の世界学生サミットに向けての活発な活動を行っています。

第15回を迎える世界学生サミットは2015年10月1日および2日“Student Taking Action in Innovative Approaches to Build Local Resilience and Promote Awareness to Global Challenges”をサブ・テーマとして本学で開催する予定です。

## 7 国際教育プログラム

2008年4月にカリキュラム改正を行い、国際教育プログラム（<sup>シエツプ</sup>CIEP）をスタートしました。このプログラムは講義・フィールドスタディ・ワークショップにより編成されており、1週間のプログラムを修了すると2科目4単位修得することができます。また、先述の世界学生サミットは、この「国際教育プログラム（CIEP）」の一環として位置づけられ、その座長と発表者には2単位が与えられます。

## 8 日本学生支援機構で募集する留学

文部科学省の外郭団体である（独）日本学生支援機構が行う外国政府奨学金留学生の募集があります。募集については農大の学生ポータルか国際協力センター、各学生サービス課の掲示で確認して下さい。

## 外国人留学生支援（オホーツクキャンパスにおいては学生教務課が担当しています）

### I 学費等の納入について

在留資格が「留学」である学生は学費の納入を年間4分割で請求しています。

第1回目から第4回目の各回の納入期限日までに必ず学費等を納入するようにして下さい。やむを得ず期限日までに払えない場合は国際協力センターまたは学生教務課へ連絡して下さい。



学費の滞納がありますと、奨学金の申請や支給に不都合がでるだけでなく学籍が取り消されることもあります。

## II 住民票及び在留カード（写）の提出について

出入国管理及び難民認定法第19条の17に基づき、外国人学生の在留資格を管理するため、必ず毎年4月上旬に住民票と在留カード両面のコピーを提出してもらいます。

## III 奨 学 金

奨学金の募集の案内は随時、学生ポータルサイトでお知らせしています。

日本学生支援機構の学習奨励費及び東京農業大学外国人留学生奨学金の募集は毎年年度初めの4月にあります。

奨学金を応募するためには在留資格が“留学”であることが必須です。

奨学金を受けられるのは留学生数の14%未満と非常に難しい状況となっています。

## IV 国民健康保険

区（市）役所の国民健康保険課で加入手続きができます。国民健康保険の加入により治療費は3割負担で済むこととなります。必ず加入して下さい。

医療機関を利用する際にはこの保険証を提示すれば医療費の7割が免除されます。

なお、健康診断や美容整形、歯科矯正、交通事故等については保険の対象外になりますので注意して下さい。

## V 留学生住宅総合保障制度

留学生が賃貸住宅に入居するにあたり保証人を探す難ささと保証人の負担を軽減し留学生の賃貸住宅への円滑な入居を促進することを目的とした制度です。

この制度を利用したい留学生は国際協力センターへ相談下さい。

## VI 在留資格等に関する事

2012年7月9日より新しい在留管理制度の導入により従来の外国人登録制度は廃止されました。詳しくは入国管理局のホームページを確認下さい。

[http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact\\_1/](http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact_1/)

外国人登録証明書については在留期間の満了日まで在留カードに見なされますので在留カードが交付されるまでは引き続き所持して下さい。

在留カードは中長期在留者に対して上陸許可や在留資格変更許可、在留期間の更新許可などの在留に係る許可に伴って交付されるものです。

新たに来日して出入国港において在留カードが交付された方は住居地を定めてから14日以内に在留カードを持参の上、住居地の地区町村の窓口でその住居地を法務大臣に届出て下さい。また引越をした場合も変更後の住居地に移転した日から14日以内に在留カードを持参のうえ移転地先の地区町村の窓口でその住居地を法務大臣に届けて下さい。

所属機関の変更（在籍校 例えば日本語学校から東京農業大学へ変更）が生じた場合は14日以内に地方入国管理官署へ出頭または東京入国管理局への郵送により法務大臣に届けて下さい。

## 在留期間の更新

在留期間を更新するためには在留期間の満了する3か月前から当日までに入国管理局へ出頭して期

間更新の手続きをしなければならない。手続きに必要なものは在留期間更新許可申請書（大学の押印が必要）在学証明書、成績証明書、旅券、在留カード、経費支弁に関する書類、手数料等です。

#### 再入国許可

有効な旅券及び在留カードを所持する外国人が出国する際、出国後1年以内に本邦での活動を継続するために再入国する場合は原則として再入国許可を受ける必要がなくなります。（この制度を「みなし再入国許可」といいます。）

出国する際には必ず在留カードを提示しなければなりません。みなし再入国許可により出国した方はその有効期間を海外で延長することはできません。出国後1年以内に再入国しないと在留資格が失われることとなりますので注意して下さい。

#### 資格外活動

留学中の学費や生活費を補うために学業の妨げにならない範囲でアルバイトをするには入国管理局へ出頭し資格外活許可の申請をしなければなりません。

アルバイトは週28時間以内（夏期、冬期、春期休暇中は1日8時間以内）と制限されます。制限時間を超えてアルバイトをすると本国への送還などの処分を受けますのでルールに従ってアルバイトするよう注意して下さい。また風俗営業や風俗関連営業が行われる場所でのアルバイトは禁じられています。スナック、ナイトクラブ、客の接待をして飲食させるバー、飲食店などでは皿洗いや清掃の仕事をする 것도禁止されていますので十分に気をつけて下さい。

資格外活動許可申請の際に必要なものはパスポート、在留カード、学制証、資格外活動許可申請書です。

以下は各キャンパスに在籍の外国人留学生が出頭するのに便利な入国管理局の一覧です。

管理局名	住所	アクセス
東京入国管理局	港区港南5-5-30 TEL 03-5796-7111	JR品川駅から都バスで東京入国管理局前
東京入国管理局 川崎出張所	川崎市麻生区上麻生1-3-14川崎西合同庁舎 TEL 044-965-0012	小田急線 新百合ヶ丘駅 南口 徒歩5分
札幌入国管理局 釧路港出張所	釧路市南浜町5-9 釧路港湾合同庁舎内 TEL 0154-22-2430	釧路駅から徒歩16分

# V 生物資源開発研究所

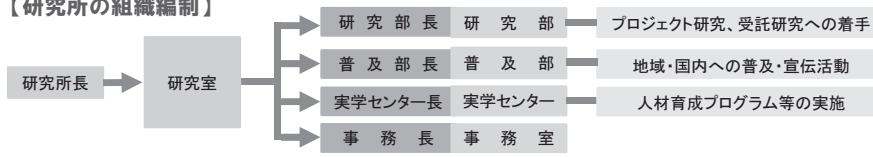
本学は各学部に研究所をおいていますが、それぞれの学部がそれぞれの立場で研究に取り組んでいます。

生物資源開発研究所の国際公称は、NODAI Bioresources Instituteで略称NBI（資源研）と称します。資源研はオホーツクキャンパスを拠点とし生物資源の開発・生産・有効利用並びに産業経済の問題について、試験研究・調査計画・普及活動などを行い、当該学術分野の進展と地域社会の、経済の発展に寄与する事を目的としています。また、農林水産業の振興をはじめ寒地農学をテーマにした国内・国外との研究交流活動も行っております。

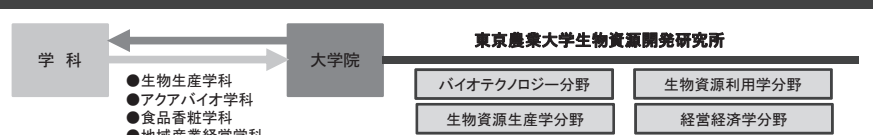
また、研究スタッフは生物産業学部各学科の教員が研究員を兼務し、調査・試験・研究にあたります。

**研究所の組織は有機的に連動して、実学のフロンティアを切り拓きます**

**【研究所の組織編制】**



**オホーツクキャンパスのノウハウを活かしたプロジェクト研究、受託研究も盛んです**



**東京農大大学生物資源開発研究所**

**【主なプロジェクト研究】**

- ◆大学戦略研究プロジェクト  
「モンゴル国における持続的畑作農業体系の構築に関する研究」
- ◆東日本支援プロジェクト  
「宮城県気仙沼における沿岸土地利用モデル構築（干潟再生）への貢献」

ほか

**【受託研究】**

- ◆ビール大麦の育種試験
- ◆オホーツク地域におけるカラフルポテト及び業務用キャベツの生産力評価
- ◆サロマ湖の水質環境に関する研究
- ◆ヨモギの香り成分に関する研究
- ◆卯原内アッケシソウに関する調査研究
- ◆オホーツク地域における主要農畜産物の販売・マーケティング・地域ブランド形成に向けた戦略について ～小麦の新たな需要開拓の可能性と販売・マーケティング戦略～
- ◆新たな商品開発に向けたやまのいも「十勝3号」の品質評価と生産技術の確立
- ◆北海道における食用大麦の栽培試験
- ◆オホーツク地域に適した早生耐冷性小豆品種育成のための生育特性解明




ほか

**オホーツク実学センター（オホーツクキャンパスの特色を活かした人材育成プログラム）**

オホーツク実学センターでは、オホーツクキャンパスの特色である“生産・加工・流通・ビジネス”というフードシステムを体系的に学べることを活かし、新商品開発や新事業創出を通じて地域活性化を担う人材の育成プログラムとして、学生向けの講座「地域資源利用によるフードマイスター育成（以下、フードマイスターと略称）」と社会人向けの講座「オホーツクものづくり・ビジネス地域創成塾（以下、地域創成塾と略称）」を実施しています。

「フードマイスター」は、学科横断的なカリキュラムで、どの学科の学生でも受講できます。講義では、原料特性から食品加工、流通、経営などの手法を学ぶだけでなく、実際にオホーツクの地域資源を活用した食品開発・製品化を体験します。「地域創成塾」は、食品開発の知識や技術だけでなく、ビジネスやマーケティング能力の向上に力を入れており、本プログラムの修了生は、オホーツク地域の資源を利用した新商品開発・起業化・事業化に必要なスキルを身につけ、各地域で活躍されています。

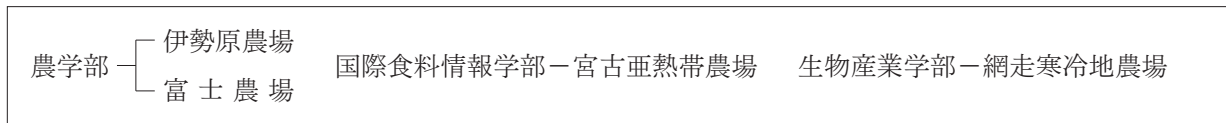
本プログラムの成果として修了生（学生及び社会人）が企画開発した商品は、オホーツクの魅力を発信する商品として、道内外で販売されています。

# VI 大学農場案内

大学には伊勢原農場・富士農場・網走寒冷地農場・宮古亜熱帯農場の4農場が設置されていますが、伊勢原農場・富士農場は農学部、網走寒冷地農場は生物産業学部、宮古亜熱帯農場は国際食料情報学部それぞれ所属しています。

農場を利用して農業実習や演習・実験を実施している学科は、農学部全学科、地域環境科学部造園科学科および生産環境工学科、国際食料情報学部国際農業開発学科、生物産業学部全学科、短期大学部の生物生産技術学科および環境緑地学科であり、教職課程の「栽培」実習などでの利用もあります。実習は、各学科の教育的効果を配慮しながら学科教員や農場教職員等が指導にあたっています。



## 伊勢原農場

伊勢原農場は、棚沢圃場を含む農場からなっています。伊勢原農場は、小田急線の北側、丹沢大山山系南東麓の神奈川県伊勢原市三ノ宮に位置し、南に相模湾を臨む南向き緩斜面にあります。気候は比較的温暖で、柑橘栽培の北限に位置します。農場の用地は約3haで、ほぼ平坦な地形にあることから、集約された農場として、効率的な運用が見込める農場であり、主に園芸（果樹・野菜・花卉・造園）に特科した実習教育の場として、実践教育に対応しています。農場は、平成22年度に圃場整備が行われ、平成23年度は、土壌改良を実施した露地野菜、造園および農業機械の3部門で実習が開始され、果樹部門においては果樹棚が完成しました。平成24年度は、花卉および野菜のガラス室や造園の雨除けハウスが完成し、果樹部門においては果樹苗を定植しました。また、冬季から翌春に花卉および野菜の施設移転が完了し、土壌消毒施設や堆肥置き場、農機具舎などの付帯施設の完成を受けて、平成25年4月より全部門の実習教育と研究が行われています。

棚沢圃場は、伊勢原農場から北方約15kmに位置した中津川水系の厚木市棚沢地区に面積2.9haを有し、水稻栽培を専門に行う圃場ですが、平成24年度には、農機具舎・加工室が完成し、圃場の一部を工芸作物で使用するための整備を行いました。平成25年度からは、工芸作物と集結し実習教育と研究が行われています。





# 伊勢原農場

所在地 神奈川県伊勢原市三ノ宮字前畑1499-1

電話 046-374-5437



野菜管理実習



造園竹垣実習



野菜収穫実習



稲刈り実習



花卉管理実習



トラクター構造観察



果樹管理実習



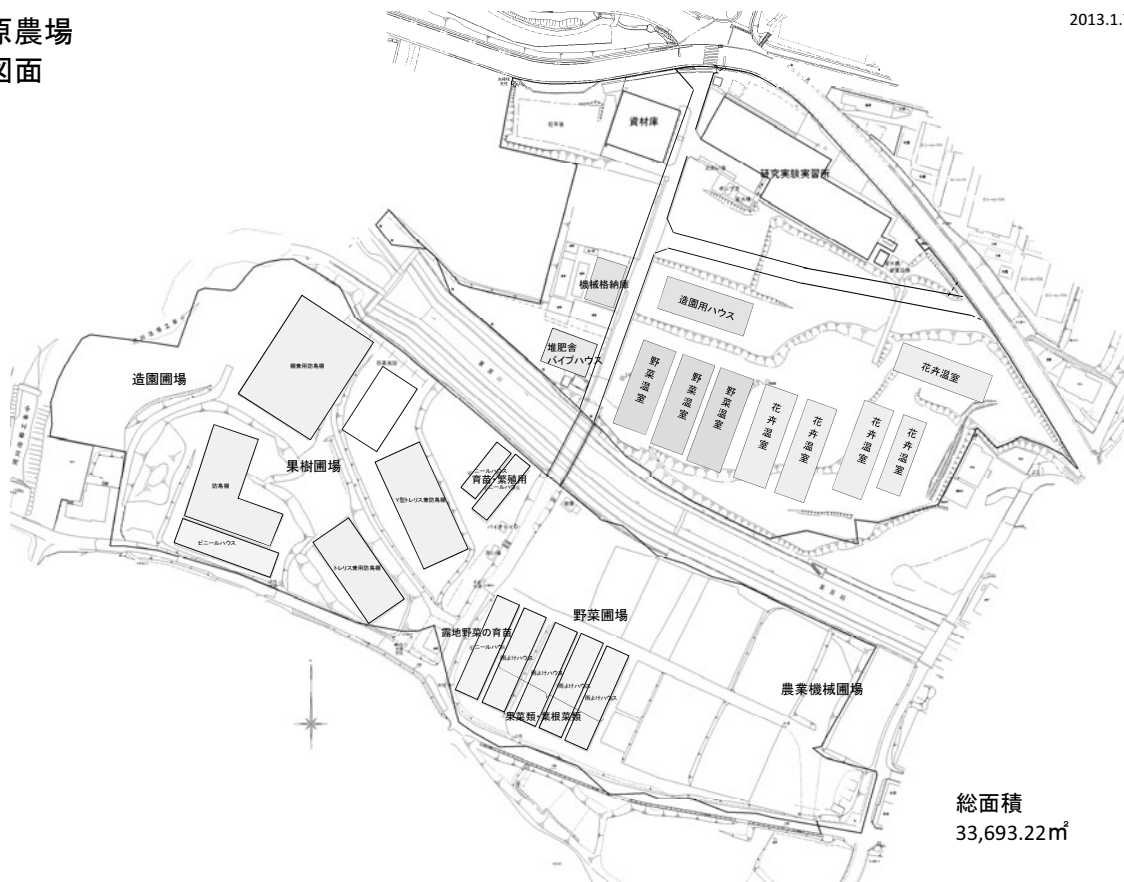
工芸作物実習

# 東京農業大学伊勢原農場案内図



# 伊勢原農場 施設図面

2013.1.7



総面積  
33,693.22㎡



## 富士農場

昭和16年開場の富士農場は、本学の農場・演習林の中でも最も歴史のある農場で平成13年に60周年を迎えました。開場時は専門部農村経済学科の修練農場として発足しました。当時は太平洋戦争開戦直前であり、日本海軍から依頼されたイチハツやグラジオラスなどの試験栽培から始められ、多くの作物が持ち込まれたが毛無山の影響をうける日照不足と多雨によってどれも生産に結びつけることが出来ませんでした。昭和40年代に入って地の適正から畜産への取り組みが本格的に始まると昭和50年代初頭にはこれが軌道に乗りました。また平成元年に那須牧場、平成2年に厚木農場養鶏・養豚部門を統合し今日の農場を形成するに至っています。

本農場は標高830mの朝霧高原に立置し、総面積33haを有し、東には日本の象徴である雄大な富士山を俯瞰し、西には標高1,946mの毛無山を仰ぎ見る絶景の地にあります。この毛無山周辺には、絶滅危惧種でユリ科の植物スルガジョウロウホトトギスやフジミズラモグラをはじめとする小型哺乳動物2目3科12種、天然記念物のハコネサンショウウオなど植生においても棲息においても貴重な自然が残されています。

農場周辺は西富士開拓として有名な酪農地帯ですが、畜産基地建設事業による養鶏・養豚団地、静岡県設置の畜産試験場などもあり畜産関係の実習教育と試験研究には格好の場となっています。さらには東海自然歩道が農場近くを通るなど、アウトドア・レクリエーションや場内設置の環境フィールドなど畜産のみならず造園・造林学の学習においても有意義な教材を提供し、全農大生、教育後援会ご父母、小・中・高校生に親しまれています。





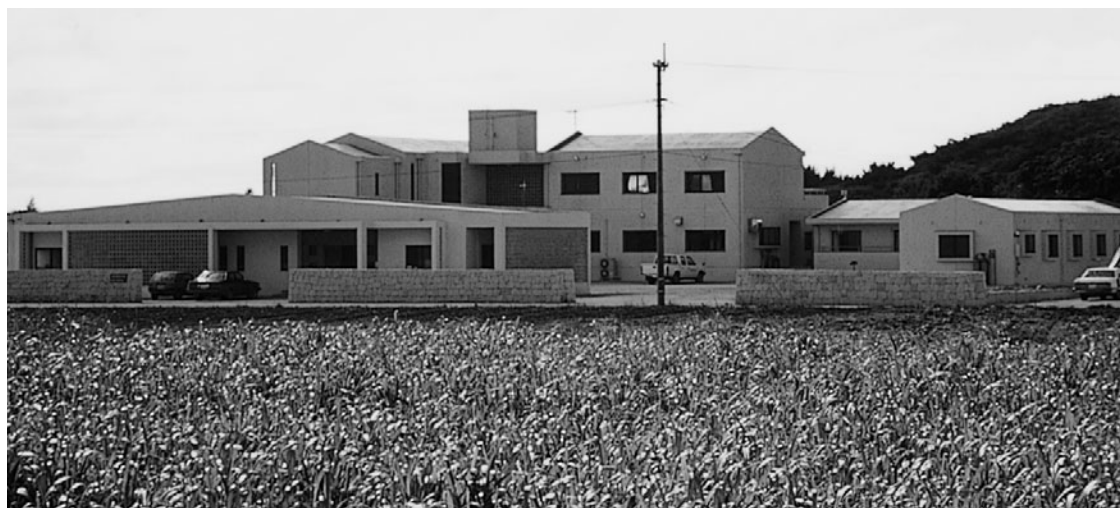
## 宮古亜熱帯農場

本農場のある沖縄県宮古島は、北緯24度から25度、東経124度から125度の間に位置し、沖縄本島と台湾のほぼ中間にあります。年平均気温は23℃、平均湿度80%と亜熱帯海洋性気候に属し、島は年間をとおして緑につつまれ、近海は色とりどりのさんご礁に囲まれています。このように豊かな自然に恵まれた宮古島は、観光地としてはもちろんのこと、全日本トライアスロン大会の開催地としてスポーツアイランドの名をはせ、また、近年では、風力発電、太陽光発電の研究施設を誘致するなど、エネトピアアイランドとしても注目されつつあります。

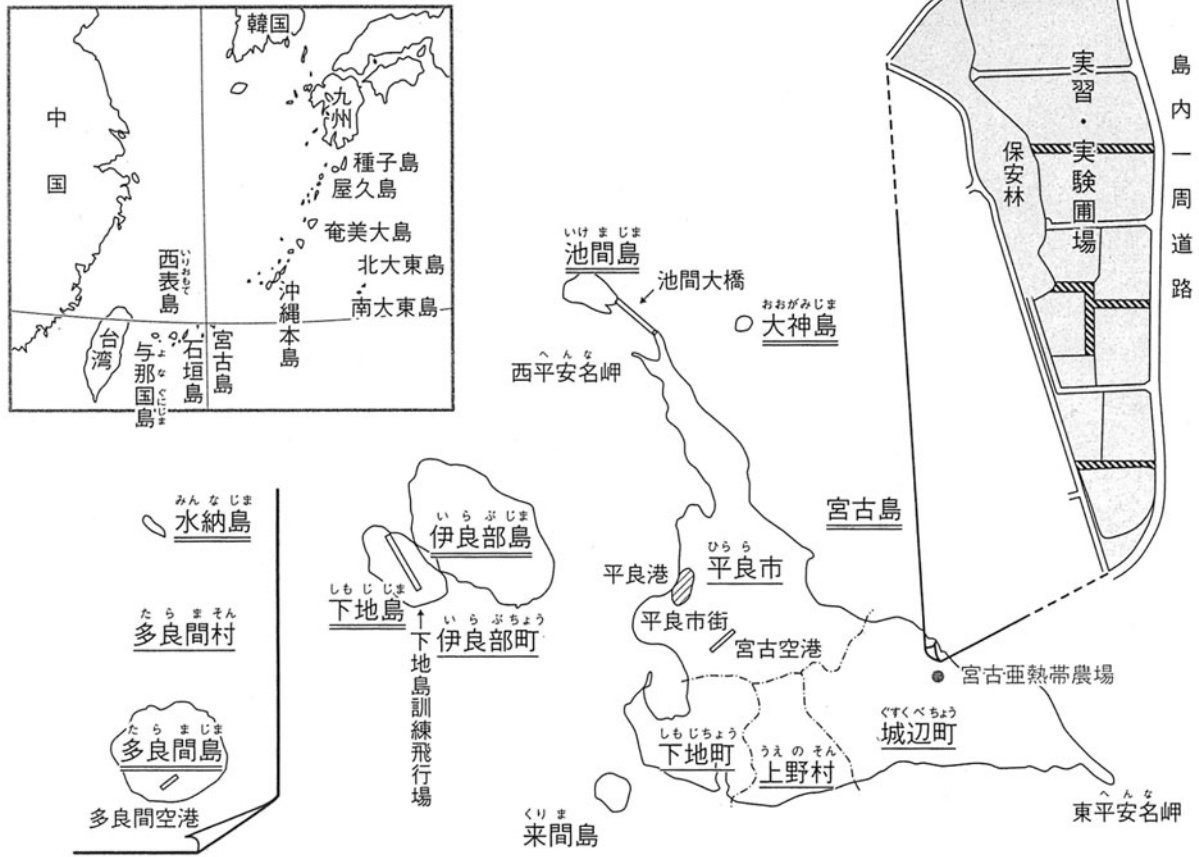
産業面では宮古島は目下開発の途上にあり、農地の基盤整備をはじめ、世界的にも珍しい地下ダムの建設、各種公共施設の整備などが急ピッチで進められています。とくに農業に関しては、地下ダムの水を利用した灌漑施設の整備とあわせ、環境保全を考慮しつつ従来のサトウキビ・モノカルチャーから作物の多様化への試行がなされており、今まさにダイナミックな変貌を遂げようとしています。

宮古亜熱帯農場はこのような環境下で、熱帯農学に基づく熱帯・亜熱帯農業の実習教育と試験研究を行うことを目的として設置されました。本農場は、宮古島の地域自治体等との協力により、地域農業の発展や農業生産環境の保全を共に考え、これらの活動を通じ地域と共に歩むことを基本姿勢のひとつとしています。農場面積は約10haで、現在、農場施設として管理研究棟、学生宿泊棟（72名収容）、研究者宿泊棟、農機具収納舎、職員住宅及び育苗ハウスが設置されています。農地はほぼ整備も終わり、一部は防風林の苗木の他、マンゴー・バナナ・サトウキビなどの熱帯果樹園・工芸作物類の植栽圃場にあてられ、すでに実習・研究圃場として利用されています。また、国際農業開発学科の学生（約200名）が地域関係諸機関および農家の協力のもとで毎年1週間の実習を行う他、教員や院生の研究及び学部学生の卒業論文研究の場として利用されています。

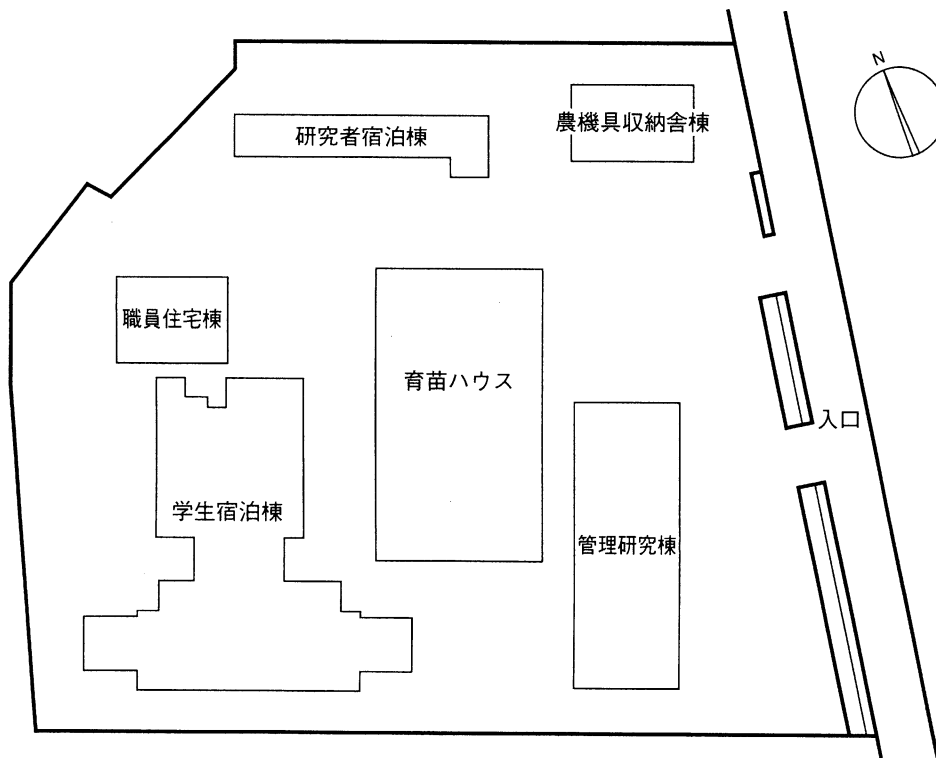
また、本農場における熱帯農業や熱帯の食糧生産環境に関する幅広い研究教育の実施は、わが国が世界から期待されている発展途上国との国際協力活動においても、とりわけ熱帯地域の農業開発協力を携わる人材育成にも大きく貢献し得るものとなっています。



# 宮古亜熱帯農場案内図



# 宮古亜熱帯農場施設配置略図





## 網走寒冷地農場

国定公園小清水原生花園「トウフツ湖」南畔にひらける、日本有数の大規模畑作農業が展開する網走市に位置する網走寒冷地農場は1982（昭和57）年、生物産業学部の開設1989（平成元）年に先駆け、寒冷地大規模畑作の実習と産・官・学が一体となった教育と研究を推進し、地域と共に歩む大学農場を目指して開設されました。

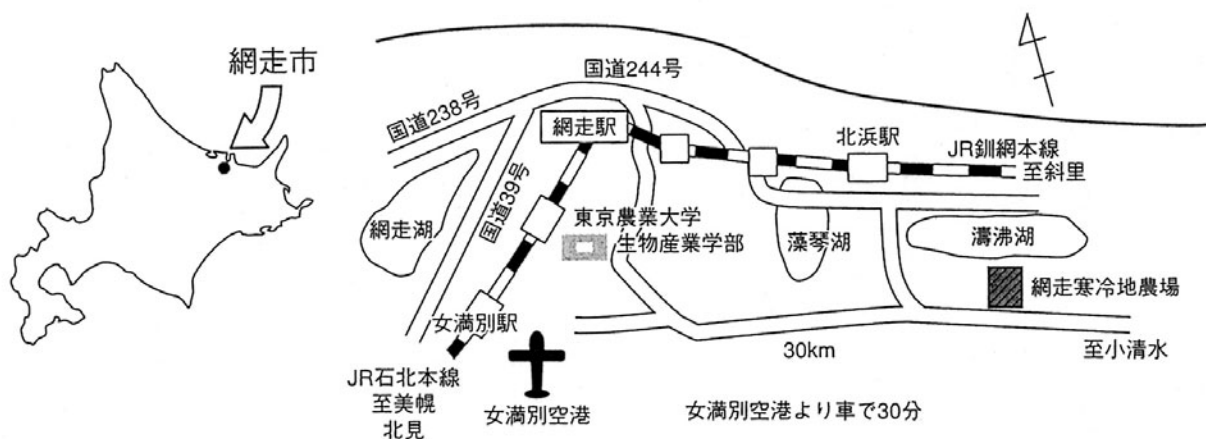
約21haの圃場には、北海道を代表する畑作物（秋播き小麦・ビール大麦・馬鈴薯・てん菜）の他に根菜類（ナガイモ・ゴボウ・ダイコンなど）が栽培され、当農場職員が農家資格を有し、地域営農集団組織の一員となって地域農家と共に組織的な運営を行っています。同時に、試験圃場による試験・研究が行われ、地域農業の発展にも大きく寄与しています。

この農場はリアリティのある地域農業問題の解明を通してこれからの新しい農業の構築をめざすことを基本理念として掲げ、営農・教育・研究が三位一体となりながら、本学の「実学主義」を具現化できるユニークな大学農場です。

知床の山々や波静かなオホーツク海など豊かな自然環境に恵まれた北海道の網走市では、オホーツクブルーの空の下、日本有数の先端的な大規模機械化畑作農業が営まれています。機械や施設は集団で所有して利用と作業は共同で行い、また、共同で生産資材を購入、生産物を販売しています。当地の畑作農業の経営はこのような営農集団方式を取り入れ、高生産農業として注目されています。



## 網走寒冷地農場案内図



## 網走寒冷地農場全景写真

全面積 42.70ha

(営農部圃場 19.01ha 教育研究部圃場 2.20ha 湿生林・原野 21.49ha)



## VII 食品加工技術センター

生物産業学部食品加工技術センターは、農大の建学精神である「実学主義」を実践するため、学生の食品製造に関する授業における実習や卒論研究などに利用されています。この施設では9業種について保健所より営業許可を取得しており、衛生面においても十分配慮された施設になっています。設置してある設備は、農、水、畜産物の多くの食品加工に対応しており、特に乳製品加工は充実しています。また、100リットル規模のビール醸造設備を設置、税務署よりビールおよび発泡酒の試験醸造免許を取得し、ビールの醸造研究ができるのも大きな特徴です。

一般企業からの製品開発にかかわる委託研究なども多く、その成果は各社に還元し役立っています。そのほか、一般市民や高校生などを対象とした食品製造の実習なども行っており、学内だけでなく広く地域にも貢献しています。さらに本学部では食品加工に関する同好会が組織されており、その活動にも当センターが利用されています。

このように、当センターは食品加工に関するいろいろな面での教育研究、地域活性化などに貢献しており、実際に多くの新製品も生まれています。





## VIII オホーツク臨海研究センター

オホーツク臨海研究センターは、平成18年度、本学学生に対する水圏に係わる教育および研究を行うことを目的に、能取湖畔の網走市共同利用施設用地内に設置されました。本センターの役割のひとつは、学部学生の臨海実習の受け入れです。臨海施設でなければできない、海を体験しつつ、生きた生物にふれながら行う実習が工夫されています。すべての大学が臨海施設を持っているわけではないため、本学の学生は恵まれた環境にあるといえます。

もうひとつの教育上の役割は、学部学生による卒業論文のための調査実験、大学院学生による修士および博士論文のための調査研究の場を提供することです。さらに、本センターでは、教員の先進的な研究が行われ、また、他大学等の研究者が来所して研究することもあります。それらの調査研究は、主として、オホーツク海における物理化学的環境と生物の活動およびそれらの相互関係に関する知見、海洋資源の合理的な開発利用に必要な知見、海洋の環境と生態系の保全と修復に欠かせない基礎的知見などを求めることに役立ちます。

そのような研究を円滑に実施するためにも、まず、産業的に有用か否かに関係なく、四季を通じてさまざまな海洋生物を採集して、この海域における生物相を明らかにしなければなりません。それらの生物を培養飼育して究明される生理学、発生学、遺伝学、生化学的成果は、それ自体がアクアバイオ学領域における今日的な研究課題であるのみならず、それぞれの生物を資源として利用するために欠かすことができない知識となるものです。さらに、実際の海に出て行われる生態学的研究の成果は、自然の環境と生態系の保全と修復に必要不可欠です。それゆえ、オホーツク臨海研究センターには、そうした研究ができるように各種の実験室が配置され、調査実習艇を含む調査研究の設備も整えられています。

このような調査研究には、学生と教職員との強い連携協力が必要であり、ときには夜を徹しての作業が必要になります。そのため、本センターの実験研究スペースは多人数を受け入れるように設計されており、また、隣接する網走市水産科学センターの宿泊施設の供与が受けられることになっています。

